

「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」 作成Q&A

～ 特別支援学級に在籍する児童生徒のために ～



令和5年1月改訂

はじめに

インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育推進の流れの中、「個別の教育支援計画」は、特別支援学校や特別支援学級に在籍する障害のある幼児児童生徒（以下、「児童生徒等」という。）だけではなく、通常の学級に在籍する発達障害等のある児童生徒等に対しても、一貫した支援を行うための重要な「ツール」として、作成が求められてきました。

平成28年4月の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行により、公立学校には特別な支援を要する児童生徒等に対する「合理的配慮」の提供が法的に義務付けられ、併せて「合理的配慮」の内容等については、「個別の教育支援計画」に明記することが望ましいことが示されました。

また、平成29年3月に告示された小・中学校学習指導要領総則において、特別支援学級に在籍したり、通級による指導を受けたりしている児童生徒については、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用することが示されました。

本県においては、平成29年に『個別の教育支援計画』の作成 Q&A～特別支援学級に在籍する児童生徒のために』を発行し、また、令和元年には、平成28年度に発行した『個別の教育支援計画』の作成 Q&A～通常の学級に在籍する児童生徒のために』の改訂を行いました。

令和5年1月の改訂では、「障害のある子供の教育支援の手引」の内容を受け、様式及び事例の見直しを行いました。

「個別の教育支援計画」の様式は、各市町、学校等によりそれぞれの特徴がありますが、提案している様式及び事例を参考としていただくことで、作成・活用が一層推進されることを願っています。

本県の全ての学校等で、特別な支援を要する児童生徒等に「個別の教育支援計画」をもとにした、教職員の共通理解による効果的な指導・支援が行われるとともに、進学先の学校へ確実に引き継がれ、必要な指導・支援、合理的配慮が継続し、特別な支援を要する児童生徒等の学校生活が充実することを期待しています。

目 次

I Q&A

Q 1	「個別の教育支援計画」とは何ですか。 …	1
Q 2	「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」には、どのような違いがありますか。 …	2
Q 3	「個別の教育支援計画」は、どのように活用すればよいのですか。 …	3
Q 4	「個別の教育支援計画」を作成する過程で、関係機関が行っている支援を、どのような方法で把握すればよいのですか。 …	4
Q 5	「個別の教育支援計画」の様式には、どのような特徴がありますか。 …	4
Q 6	「個別の指導計画」の様式には、どのような特徴がありますか。 …	6
Q 7	「個別の教育支援計画」を作成する手順と留意点を教えてください。 …	7
Q 8	「個別の指導計画」を作成する手順と留意点を教えてください。 …	8
Q 9	「合理的配慮」とは何ですか。また、「個別の教育支援計画」と「合理的配慮」との関係について教えてください。 …	9
Q 10	「児童生徒の継続的な指導・支援のための引継ぎシート」と「個別の教育支援計画」との関係について教えてください。 …	10

※参考資料 … 11

II 様式及び記述上の留意点

・プロフィール票 …	17
・個別の教育支援計画 …	18
・個別の指導計画 …	20

Ⅲ 事例集

事例 1	知的障害特別支援学級 ＜小学校5年生・一部を下学年の目標・内容に替える教育課程＞	… 23
事例 2	知的障害特別支援学級 ＜小学校3年生・一部を知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替える教育課程＞	… 28
事例 3	知的障害特別支援学級 ＜中学校1年生・一部を知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替える教育課程＞	… 33
事例 4	自閉症・情緒障害特別支援学級 ＜小学校5年生・知的障害のない児童の教育課程＞	… 38
事例 5	自閉症・情緒障害特別支援学級 ＜中学校1年生・知的障害のない生徒の教育課程＞	… 43
事例 6	肢体不自由特別支援学級 ＜小学校6年生・知的障害のない児童の教育課程＞	… 48
事例 7	弱視特別支援学級 ＜小学校5年生・知的障害のない児童の教育課程＞	… 53
事例 8	難聴特別支援学級 ＜小学校3年生・知的障害のない児童の教育課程＞	… 58
事例 9	病弱及び身体虚弱特別支援学級 ＜中学校3年生・知的障害のない生徒の教育課程＞	… 63
事例 10	言語障害特別支援学級 ＜中学校1年生・一部下学年の目標・内容に替える教育課程＞	… 68

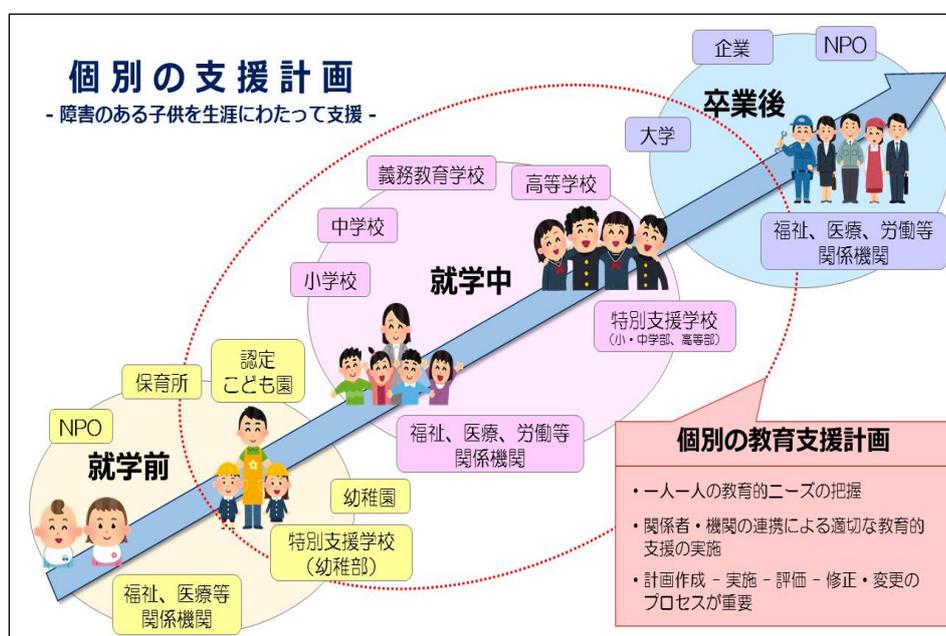
I Q&A

Q 1 「個別の教育支援計画」とは何ですか。

A

平成 15 年度から実施された障害者基本計画においては、「教育、医療、福祉、労働等の関係機関が連携・協力を図り、障害のある児童の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における児童の望ましい成長を促すため、個別の支援計画を作成すること」が示されました。

この支援計画のうち、教育機関が中心となって作成するものを「個別の教育支援計画」と言います。



「個別の教育支援計画」は、幼児期から学校卒業までの長期的な視点に立って、一貫した教育的な支援を行うために、保護者や関係機関と連携しながら、障害のある幼児児童生徒（以下「児童生徒等」という。）一人一人に作成します。

「個別の教育支援計画」を作成・活用することにより、関係者間で情報を共有し、一貫した支援を継続して行うことができます。

各学校は、個人情報漏洩したり滅失したりすることがないように、適切な保存・管理を行った上で、必要な支援内容等を進学先等に確実に引き継ぐことが重要です。

なお、文部科学省の通知により、個別の教育支援計画は5年間保存されることが文書管理上望ましいことが示されています。

Q 2 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」には、どのような違いがありますか。

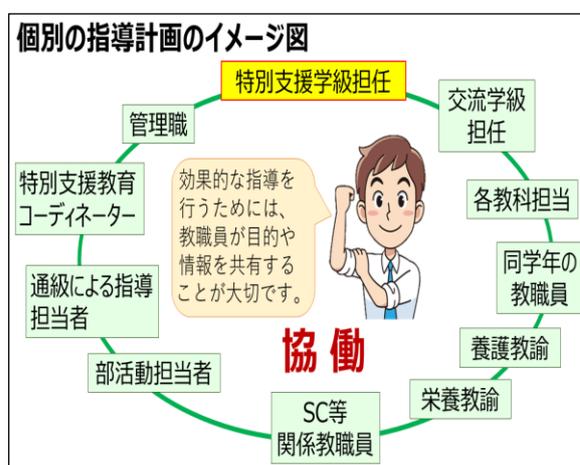
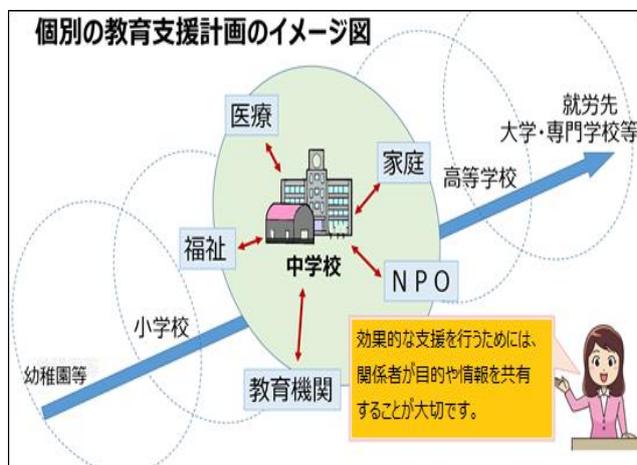
A

「個別の教育支援計画」は、関係機関と連携し、効果的な支援を一貫して行うためのものです。本人・保護者の同意を得た上で、関係機関と情報を共有したり、進学先の学校等へ引き継いだりすることで、その目的を果たすことができます。

「個別の指導計画」は、学校の教育課程に基づき、個々の障害のある児童生徒等の障害の状態や特性、発達の段階等に応じたきめ細かな指導を行うために、指導の目標や内容、方法等を示した計画です。

特別支援学級に在籍する児童生徒に対しては、どちらの計画も全員作成し、活用することが規定されています。

	個別の教育支援計画	個別の指導計画
いつ	在園・在校中	在園・在校中
だれが	学校が 家庭、医療、福祉、労働等の 関係機関と連携して	学校が
何の ために	長期的な視点に立って、 一貫した支援を行うために	個々の教育的ニーズに応じた組織的・ 計画的で、きめ細かな指導を行うために
どうする	保護者の同意を得て作成し、 効果的に活用する	作成し、効果的に活用する



Q3 「個別の教育支援計画」は、どのように活用すればよいのですか。

A

本人、保護者、教職員（管理職、特別支援教育コーディネーター、担任、教科担任、通級による指導担当教員、支援員等）、関係機関（医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師等）が、「個別の教育支援計画」に記載されている情報を共有し、それぞれの立場で必要な支援や手立て等の連携を行っていきます。

ただし、本人や保護者の同意なく、第三者に「個別の教育支援計画」を提供することはできません。関係機関との共有や進学先等への引継ぎの際には、あらかじめ同意を得ておきましょう。

この「個別の教育支援計画」を活用して、本人や保護者の思いを共有し、有効な支援を継続させ、さらに充実したものとなるよう、本人及び保護者を中心として、学校、関係機関をつなぐツールにしていくことが大切です。

- 教職員（学校）と保護者を「つなぐツール」
- 必要な指導や支援の手立てを「つなぐツール」
- 本人及び保護者の思いや願いを「つなぐツール」
- 本人と関わる関係機関にとって必要な情報を「つなぐツール」

※「個別の教育支援計画」作成のメリット

- 一人一人の支援の目標や内容、方法が明確になり、学校等で行われる教育が障害の状態や発達段階に応じたものになります。
- 教育の分野だけでなく、医療、福祉、労働等、児童生徒等にかかわる様々な立場の人が、支援の目標や内容について共通の認識をもつことで、一貫した対応が可能となります。
- 幼稚園・保育所等から小・中・義務教育学校、特別支援学校、高等学校、さらには、その後の教育や就労など、切れ目なく引き継ぐことで、生涯にわたり、見通しをもった支援を継続的に行う上で役立ちます。

【児童生徒等にとってのメリット】

継続して支援を受けることができ、安心して過ごすことができます。

【保護者にとってのメリット】

学年や学校が変わっても、子供の様子を最初から話さなくてよいので、助かります。

Q 4 「個別の教育支援計画」を作成する過程で、関係機関が行っている支援をどのような方法で把握すればよいのですか。

A

関係機関（医療、保健、福祉、労働等）が行っている支援の内容等を、学校が把握する方法としては、本人や保護者の同意を得た上で、以下の方法などが考えられます。

- ①本人や保護者と一緒に担任等が関係機関（医療、保健、福祉、労働等）に出向き、見学等をさせてもらうことで支援内容を把握する。
- ②関係機関（医療、保健、福祉、労働等）から受けている支援の内容等について保護者から情報を得る。
- ③担任等が、関係機関（医療、保健、福祉、労働等）の担当者と直接会って支援の内容等について把握する。
- ④関係機関（医療、保健、福祉、労働等）からの文書で把握する。

※医療機関からの医療文書（診断書、診療情報提供書等）は、料金が発生する場合がありますので注意すること。また、保護者が受け取った医療文書を許可なくコピーすることもできないので注意すること。

Q 5 「個別の教育支援計画」の様式には、どのような特徴がありますか。

A

本センターの「個別の教育支援計画」は、「プロフィール票」と「個別の教育支援計画」を合わせたものを例示しています。（P.17～19参照）

特徴として、次のことが挙げられます。

長崎県教育センター「個別の教育支援計画」の特徴

- 「プロフィール票」は、本人や家庭に関する情報（氏名、性別、生年月日、家族構成、住所、在籍学校、学年（学級）、障害者手帳の有無等）や関係機関との連携について、これまでの経過が分かる。
- 「個別の教育支援計画」は、本人・保護者の願い、実態、検査結果、支援の方向性等が分かる。
- 年度ごとに作成する。

Q 6 「個別の指導計画」の様式には、どのような特徴がありますか。

A

本センターの「個別の指導計画」の特徴として次のことが挙げられます。(P.20・21参照)

長崎県教育センター「個別の指導計画」の特徴

- ・ 自立活動及び教科等ごとに、指導目標（年間・短期）、指導内容等を記入するようにしている。
- ・ 保護者面談や校内支援委員会の期日、参加者、内容について、記録する欄を設けている。
- ・ 学期ごとに記入する。3学期分には次年度への引継ぎ欄を設けている。

④ 個別の指導計画（1学期）					
学校名		学年		氏名	
主学習 実上 態・生 活上 の	できること、得意なこと、好ましい点		苦手なこと、改善したい点		
〈教科等について〉					
各教科等における配慮事項等					
教科等	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等	
教育課程 学びの場					
自立活動	【年間目標】				
	【短期目標】				
	【年間目標】				
	【短期目標】				
	【年間目標】				
	【短期目標】				
	【年間目標】				
	【短期目標】				
	【年間目標】				
	【短期目標】				
	【年間目標】				
	【短期目標】				
	【年間目標】				
	【短期目標】				
保護者面談・校内支援委員会等の記録					
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）			
R 年 月 日 : ~ :					
R 年 月 日 : ~ :					
R 年 月 日 : ~ :					

図2 「個別の指導計画」の様式

Q7 「個別の教育支援計画」を作成する手順と留意点を教えてください。

A

本書の様式で作成する場合、以下のような手順で行います。(P.17~19 参照)

- ① 児童生徒等の実態把握を行う。
- ② 「個別の教育支援計画」作成について、保護者の同意を得る。
- ③ 保護者から、本人に関する情報（診断名、療育手帳の有無、教育相談の情報、本人・保護者の願い、好きなこと・嫌いなこと、検査結果等）を得て、「プロフィール票」と「個別の教育支援計画」に記入する。
- ④ 保護者とともに、学習上・保育上、生活上の困難な点、支援の方向性（長期目標、必要な配慮・支援）について、合意形成を図る。
- ⑤ 「個別の教育支援計画」に、保護者の確認印をもらう。
- ⑥ 年度末に、年間評価を行う。また、保護者に、次年度に引き継ぐ内容を「個別の教育支援計画」で確認し、印をもらう。

また、「個別の教育支援計画」を具体化した支援の方向性は、「個別の指導計画」に生かしていきましょう。

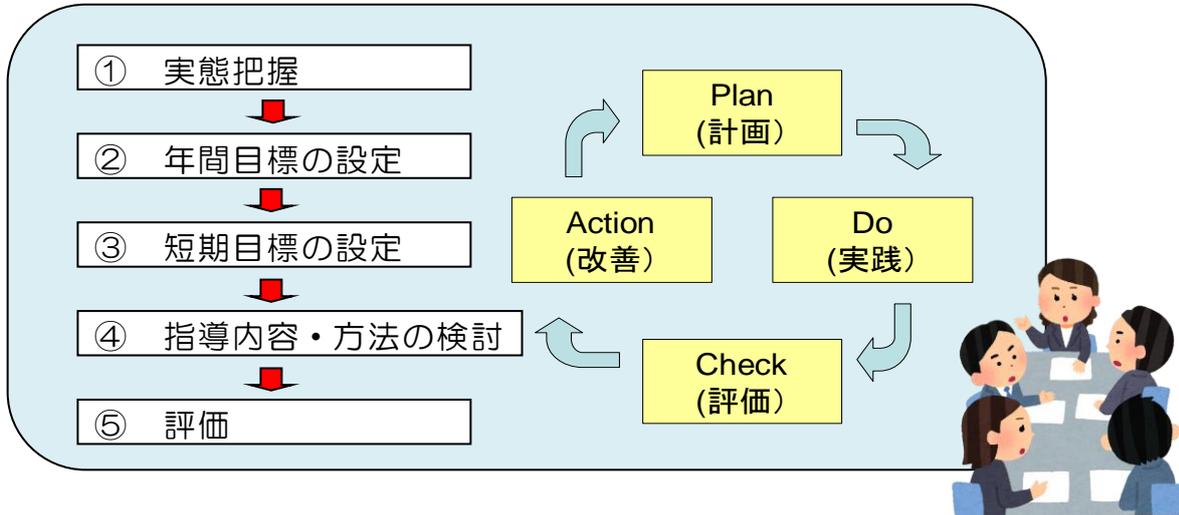
さらに、年度途中で保護者面談等で得た関係機関の情報があれば、追記するようにしましょう。



Q 8 「個別の指導計画」を作成する手順と留意点を教えてください。

A

本書の様式で作成する場合、以下のような手順で、PDCAサイクルによる改善を行います。(P.17～21 参照)



手順		留意点
① 実態把握	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握を行う。 ・指導の方向性を定める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育支援計画」を作成している場合は、その支援の内容に留意する。
② 年間目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年間目標を設定する。 	
③ 短期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・短期目標（学期ごと等）を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間目標を達成するために段階的に設定する。 ・場面や回数、時間を示す等、短期的に達成可能な具体的な目標を設定する。 ・否定的な表現は避け、前向きな表現にする。
④ 指導内容 ・ 指導方法 の 検討	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の内容、方法を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何を、いつ、誰が、どこで（どの場面で）、どのように指導するかを明確にし、関係職員が連携して支援を行う。 ・内容・方法を記入する際の観点（例） <ul style="list-style-type: none"> ➢ 指示に関すること ➢ 視覚的な指示や教材に関すること ➢ ツール（道具）や教材に関すること ➢ 環境設定に関すること ➢ 特性に応じた指導に関すること
⑤ 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期の指導目標に対する評価を記入する。 ・指導内容・方法の評価を行う。 ・評価を指導内容・方法の改善に生かす。

Q9 「合理的配慮」とは何ですか。また、「個別の教育支援計画」と「合理的配慮」との関係について教えてください。

A

「合理的配慮」とは、障害のある児童生徒等が十分に教育を受けられるための必要かつ適当な変更・調整のことであり、

- ・個別に必要とされるもの
 - ・体制面・財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの
- としています。

合理的配慮は、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて検討・決定していきます。学校の設置者及び学校と本人及び保護者が合理的配慮の具体的内容について可能な限り合意形成を図った上で決定し、提供される必要があります。その際は、建設的な対話や必要に応じた代替案の提示にも留意しましょう。そして、その内容を「個別の教育支援計画」に明記し、活用していくことが大切です。本センターの様式では、「必要な配慮・支援」の欄に記述します。

平成26年4月から施行されている「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」にも合理的配慮を怠ってはならないことが示されています。（P.14参照）

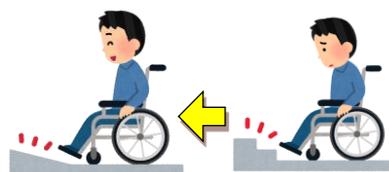
また、平成28年4月1日から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行され、各学校においては発達障害を含めた障害のある児童生徒等への「不当な差別的取扱い」の禁止、及び「合理的配慮」の提供が義務付けられました。（P.15参照）

※ 不当な差別的取扱いの例

- 障害があることを理由に、遠足、水泳の授業、校外学習、地域の行事等に参加させないこと
- できないと決め付けて、授業中に障害のある児童生徒等を無視すること
- 障害があることを理由に、常に最前列の座席に配置すること
- 他の児童と区別するため、常に黄色の帽子をかぶらせる等の目印を付けさせること

※障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例【逐条解説】第14条（教育における差別の禁止）より抜粋

※合理的配慮の観点や障害種別の実践事例については、
国立特別支援教育総合研究所
「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」
（インクルDB <http://inclusive.nise.go.jp/>）
を参考にしてください。



Q10 「児童生徒の継続的な指導・支援のための引継ぎシート」と「個別の教育支援計画」との関係について教えてください。

A

「児童生徒の継続的な指導・支援のための引継ぎシート」（以下、「引継ぎシート」）は、平成27年7月に策定された「児童生徒の継続的な指導・支援のための引継ぎガイドライン」（平成29年2月改訂）において、児童生徒の進学・進級や転学の際に学校・学年間において統一的な視点で引継ぎを確実にを行い、継続した指導・支援を実施していくためのツールとして提案されました。

「個別の教育支援計画」と児童生徒に関する情報を引き継いだり、共有したりするという点では共通していますが、「引継ぎシート」と「個別の教育支援計画」の作成の目的や活用の仕方等には、以下のような特徴があります。

	「引継ぎシート」	個別の教育支援計画
目的	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の進学・進級や転学の際に学校・学年間において統一的な視点で引継ぎを確実にを行い、継続した指導・支援を実施していくために作成 	<ul style="list-style-type: none"> 自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するための必要な力を培うために、長期にわたる関係機関等との連携による支援について作成
対象	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導面や児童福祉的な観点、家庭環境等において継続的に支援をしていく必要があると考えられる児童生徒 問題行動の予兆がある児童生徒に作成 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害を含む障害のある児童生徒に対して、問題行動や診断の有無にかかわらず作成
活用の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 校内引継ぎ委員会等において、これまでどのような指導・支援がなされ、今後どのような指導・支援が必要とされるのか相互に共通理解するとともに、危機感を共有するために活用 卒業、進級、進学、転学先においても継続した指導・支援を行い、児童生徒が、学校で安心して学べる環境を整え、児童生徒一人一人に応じた指導・支援を適切に行うために活用 	<ul style="list-style-type: none"> 校内支援委員会等において、定期的に支援の実施状況の見直しを図り、変更があった場合は随時加筆、修正を行いながら、計画と実施、評価、改善を繰り返して活用 関係機関と共有したり、進学先の学校等へ引き継いだりするために活用
保護者の同意の有無	<ul style="list-style-type: none"> 作成及び引継ぎに、保護者の同意の必要なし 	<ul style="list-style-type: none"> 作成及び引継ぎには、保護者の同意が必要

参考資料

幼稚園教育要領

(平成29年3月文部科学省告示)

障害のある幼児などへの指導に当たっては、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し、特別支援学校などの助言又は援助を活用しつつ、個々の幼児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。また、家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で幼児への教育的支援を行うために、**個別の教育支援計画**を作成し活用することに努めるとともに、個々の幼児の実態を的確に把握し、**個別の指導計画**を作成し活用することに努めるものとする。

保育所保育指針

(平成29年3月厚生労働省告示)

障害のある子供の保育については、一人一人の子供の発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、障害のある子供が他の子供との生活を通して共に成長できるように、**指導計画の中に位置付けること**。また、子供の状況に応じた保育を実施する観点から、**家庭や関係機関と連携した支援のための計画**を個別に作成するなど適切な対応を図ること。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

(平成29年3月文部科学省・厚生労働省告示)

障害のある園児などへの指導に当たっては、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し、適切な環境の下で、障害のある園児が他の園児との生活を通して共に成長できるように、特別支援学校などの助言又は援助を活用しつつ、個々の園児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。また、家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で園児への教育及び保育的支援を行うために、**個別の教育及び保育支援計画**を作成し活用することに努めるとともに、個々の園児の実態を的確に把握し、**個別の指導計画**を作成し活用することに努めるものとする。

小学校（中学校）学習指導要領 （平成29年3月文部科学省告示）

障害のある児童（生徒）などについては、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童（生徒）への教育的支援を行うために、**個別の教育支援計画**を作成し活用することに努めるとともに、各教科等の指導に当たって、個々の児童（生徒）の実態を的確に把握し、**個別の指導計画**を作成し活用することに努めるものとする。特に、特別支援学級に在籍する児童（生徒）や通級による指導を受ける児童（生徒）については個々の児童（生徒）の実態を的確に把握し、**個別の教育支援計画**や**個別の指導計画**を作成し、効果的に活用するものとする。

高等学校学習指導要領 （平成30年3月文部科学省告示）

障害のある生徒などについては、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で生徒への教育的支援を行うために、**個別の教育支援計画**を作成し活用することに努めるとともに、各教科・科目等の指導に当たって、個々の生徒の実態を的確に把握し、**個別の指導計画**を作成し活用することに努めるものとする。特に、通級による指導を受ける生徒については、個々の生徒の障害の状態等の実態を的確に把握し、**個別の教育支援計画**や**個別の指導計画**を作成し、効果的に活用するものとする。

特別支援学校（小・中学部）学習指導要領 （平成29年4月文部科学省告示）

小学校又は中学校等の要請により、障害のある児童若しくは生徒又は当該児童若しくは生徒の教育を担当する教師等に対して必要な助言又は援助を行ったり、地域の実態や家庭の要請等により保護者等に対して教育相談を行ったりするなど、各学校の教師の専門性や施設・設備を生かした地域における特別支援教育のセンターとしての役割を果たすよう努めること。その際、学校として組織的に取り組むことができるよう校内体制を整備するとともに、他の特別支援学校や地域の小学校又は中学校等との連携を図ること。

学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について

(平成 30 年 8 月 27 日付 30 文科初第 756 号通知)

第2 改正の概要

- 1 特別支援学校に在学する幼児児童生徒について、個別の教育支援計画（学校と関係機関等との連携の下に行う当該幼児児童生徒に対する長期的な支援に関する計画をいう。）を作成することとし、当該計画の作成に当たっては、当該幼児児童生徒又は保護者の意向を踏まえつつ、関係機関等と当該幼児児童生徒の支援に関する必要な情報の共有を図ることとする。

（新第134条の2関係）

- 2 1の規定について、小・中学校の特別支援学級の児童生徒、小・中学校及び高等学校において通級による指導が行われている児童生徒に準用すること。

（新第 139 条の 2、新第 141 条の 2 関係）

- 3 施行時点において、すでに学習指導要領等に基づき作成されている個別の教育支援計画については、新第 134 条の 2、新第 139 条の 2 又は新第 141 条の 2 の規定により作成されたものとみなすこと。

（附則第 2 項関係）

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための 特別支援教育の推進（報告）

（平成 24 年 7 月）

- 可能な限り早期から成人に至るまでの一貫した指導・支援ができるように、子供の成長記録や指導内容等に関する情報を、その扱いに留意しつつ、必要に応じて関係機関が共有し活用することが必要である。

障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知） （平成25年10月）

早期からの一貫した支援のためには、障害のある児童生徒等の成長記録や指導内容等に関する情報について、本人・保護者の了解を得た上で、その扱いに留意しつつ、必要に応じて関係機関が共有し活用していくことが求められること。

このような観点から、市町村の教育委員会においては、認定こども園・幼稚園・保育所において作成された**個別の教育支援計画**等や、障害児相談支援事業所で作成されている障害児支援利用計画や障害児通所支援事業所等で作成されている個別支援計画等を有効に活用しつつ、適宜資料の追加等を行った上で、障害のある児童生徒等に関する情報を一元化し、当該市町村における「**個別の教育支援計画**」「相談支援ファイル」等として小中学校等へ引き継ぐなどの取組を進めていくことが適当であること。

障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例 （平成26年4月 施行）

（教育における差別の禁止）

第14条 ～（略）～障害を理由として、次の各号に挙げる行為を行ってはならない。

（1）（略）

（2）障害のある人及びその保護者の意見を尊重せず、障害のある人及びその保護者との間で学校教育の場において障害のある人及びその保護者に必要な情報提供を行わないこと、必要な支援に対して合意形成を図ろうとしないこと。

【逐条解説】

「合意形成を図る」とは、～（略）～早期からの継続した教育相談の中で、「必要な情報提供」、「障害のある人及びその保護者からの意見聴取」、「専門家の意見聴取」等を行い、就学先の学校において必要な支援等の内容を「**個別の教育支援計画**」にまとめて提示する等により、障害のある人及びその保護者に分かりやすい説明を心がけ、その内容を理解してもらうことが大切です。

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）
（平成28年4月 施行）

文部科学省所管事業分野における障害を理由とする
差別の解消の推進に関する対応指針について（通知）
（平成27年11月）

（以下要約）

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」は、障害を理由とする差別の解消を推進することにより、すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現につながることを目的としている。これにより、発達障害を含めた障害のある児童生徒への「不当な差別的取扱い」の禁止、及び「合理的配慮」の提供が義務付けられます。

この法律に基づき、「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針について（通知）」の分野別の留意点、学校教育分野の留意点において、「合理的配慮は一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じ、設置者・学校及び本人・保護者により、発達の段階を考慮しつつ合意形成を図った上で提供されることが望ましく、その内容を個別の教育支援計画へ明記することが重要である。」と示されています。

障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを
踏まえた学びの充実に向けて～（令和3年6月）

個別の教育支援計画の作成・活用等により、障害のある子供一人一人について、①教育的ニーズの整理、②支援の目標や教育上の合理的配慮を含む必要な支援の内容の検討、③関係者間の情報共有の促進と共通認識の醸成、④家庭や医療、福祉、保健、労働等の関係機関との連携強化、⑤教育的ニーズと必要な支援の内容の定期的な見直し等による継続的な支援、などの効果が期待でき、その取組を強力に推進していくことは、特別支援教育の理念の実現につながるものである。

発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する

教育支援体制整備ガイドライン

～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～

(平成29年3月 文部科学省)

- 校長は、学校内での**個別の教育支援計画**及び**個別の指導計画**を作成し、活用を進めるとともに、適切に管理します。
- 校長は、**個別の教育支援計画**等を活用し、教育上特別の支援を必要とする児童等の支援内容を進学先へ適切に引き継ぎます。
- 特別支援教育コーディネーターは、巡回相談員及び専門家チームとの連携を図ります。連携に基づいて、**個別の教育支援計画**等や支援内容の改善につなげていきます。
- 通常の学級の担任は、特別支援教育コーディネーターと連携して、教育上特別の支援を必要とする児童等の**個別の教育支援計画**及び**個別の指導計画**作成の中心を担い、適切な指導や必要な支援に生かします。
- 通級担当教員は、校内の教育支援体制の整備に当たって、専門的な見地から助言を行います。
- 特別支援学級担任は、校内の教育支援体制の整備に当たって、担当する障害種に関する教育について最も知識のある専門家として助言を行います。
- 養護教諭は、各学校の特別支援教育の校内体制の中で、児童等の心身の健康課題を把握し、児童等への指導及び保護者への助言を行うなど、重要な役割を担います。

【個別の教育支援計画】

(秘)		個別の教育支援計画			
氏名		主な記載者 (本人との関係)		年 月 日作成	
本人に関する情報	願	<本人>			
	願	<保護者>			
		<本人が好きなこと、できること、得意なこと、好ましい点>		<本人が嫌いなこと、苦手なこと、改善したい点>	
		「主な実態」は、可能な限り、複数の目で見えて記入する。			
	主な実態	<家庭での生活上、困難な点>			
	「有り」の場合、必ず保管する。				
支援の方向性	<長期目標>				
	およそ1年後（年度末）の姿を想定し、具体的に記入する。				
	<必要な配慮・支援>（◎は合理的配慮として本人・保護者と合意形成した内容）				
	本人の障害の状態や特性を考慮し、必要な配慮を記入する。合理的配慮として保護者と合意形成した内容は◎で記述する。				
以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。					
		令和 年 月 日		保護者氏名	
年度末評価	<目標の評価>				
	年度当初の合意形成				
	<配慮・支援の評価>				
	年度末の確認				
以上の情報を引き継ぐことに同意しました。					
		令和 年 月 日		保護者氏名	

<本人に関する情報>

- 「願い」は、面談等を通じて得た本人や保護者の願いを記入する。
 - ・本人に確認できない場合は、保護者や身近な教員が、本人の思いを汲んで記入する。

- 「好きなこと、できること、得意なこと、好ましい点」、「嫌いなこと、苦手なこと、改善したい点」は、指導上の参考となるため、必ず記入する。
 - ・担任だけの見立てでなく、保護者も含め、複数の目で見えて記入する。

- 「家庭での生活上、困難な点」は、保護者から聞き取った事柄を記入する。

- 「検査結果」の「結果」は、数値及び主な特性を記述する。「検査報告書」等、検査結果の詳細が分かる資料がある場合、「資料等」の「有り」にチェックをし、別に保管する。

<関係機関に関する情報>

- 「関係機関」は、
 - ・教育機関（特別支援学校、県教育センター等）
 - ・医療機関（病院、歯科医院等）
 - ・療育機関（放課後等デイサービス等）等を記入する。

<支援の方向性>

- 「長期目標」は、およそ1年後の姿を想定し、具体的に記入する。

- 「必要な配慮・支援」は、本人の障害の状態や特性を考慮し、必要な配慮を記述する。
また、本人・保護者から要請があった合理的配慮（合意形成が図られた内容）は◎で記入する。

- 必ず、保護者（必要があれば本人）や複数の教職員で検討し、保護者（本人）と共有する。

【個別の指導計画】

秘 個別の指導計画（3学期）				
学校名		学年		氏名
主 学 な 習 実 上 態 ・ に 生 つ 活 い 上 て の	できること、得意なこと、好ましい点	苦手なこと、改善したい点		
<教科等について>				
各教科等における配慮事項等				
教科等	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
教育課程 学びの場	【短期目標】			
自立活動	【短期目標】			
	【短期目標】			
教科等についての次年度の方向性				
保護者面談・校内支援委員会等の記録				
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）		
H : 年 月 日 : ~ ~ :				
H : 年 月 日 : ~ ~ :				
H : 年 月 日 : ~ ~ :				

前期・後期に変更して使用することも可能。

各教科等を通じて、必要な配慮事項を記入する。

年度末に、1年間の子供の成長や変容をもとに、教科等の指導について全体的な評価を行い、次年度の方向性を記入する。

【記入上の留意点】

○複数の教職員で検討し、記入する。

- ・保護者（本人）の理解が十分得られている場合、保護者（本人）も含めて検討し、保護者（本人）と共有する。

<学習上・生活上の主な実態について>

○「できること、得意なこと、好ましい点」「できないこと、苦手なこと、改善したい点」は、個別の教育支援計画から転記する（児童生徒の変容に応じて加筆・修正する）。

<教科等について>

○「各教科等における配慮事項等」は、個別の教育支援計画の「支援の方向性」の〈必要な配慮・支援〉をもとに、各教科等で共通の配慮事項等を記入する。

○「教科等 教育課程 学びの場」の「教科」は、児童生徒の実態に応じて編成する教育課程に沿って記述するものとし、「教科名」を記入する。

○「教科等 教育課程 学びの場」の「教育課程」は、以下に示す教育課程を編成する場合が考えられ、「〇年」「知的代替」のいずれかをリストから選択し記入する。

- ・小学校、中学校の当該学年の各教科等を中心とした教育課程
→「児童生徒の当該学年」を選択する。
- ・小学校、中学校の下学年の各教科等を中心とした教育課程
→「児童生徒の当該学年より下の学年」を選択する。
- ・知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科等を中心とした教育課程
→「知的代替」を選択する。

○「目標」は、児童生徒の実態に応じて編成する教育課程に沿って、「当該学年」「〇学年に同じ」とし、「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科等を中心とした教育課程」を編成している場合は具体的な目標を文章で記入する。

○「主な指導内容・配慮事項等」は、個別の教育支援計画の「必要な配慮・支援」に基づいて、目標を達成させるための重点的な指導内容や必要な配慮事項を具体的に記入する。

○「評価」は、目標に対する児童生徒の変容を、◎（十分達成した）○（ほぼ達成した）△（達成が不十分）で評価する。

○「気付き等」は、観点別評価の評価基準を踏まえて、できつつあることなど肯定的な面やつまずきの原因等を記入する。

<保護者面談・校内支援委員会の記録>

・「参加者」は、保護者面談や校内支援委員会等の参加者で「校長」「特別支援教育コーディネーター」「担任」「父親」「母親」などを記入する。

・「協議（・）・合意内容（○）」は、主な協議内容を「・」印、保護者や職員間で合意形成した内容を「○」印で示して簡潔に記入し、別資料がある場合は、その旨、記入する。

Ⅲ 事例集

※ 事例集については、様々な障害種、学年を例示しています。それぞれの学校の児童生徒の実態に合わせて参考にしてください。



知的障害
特別支援学級
小学校5年生

※一部を下学年の目標・内容に替える教育課程

秘

プロフィール票

作成日 (年 月 日)

本人に関する情報	氏名	くしま せんた 玖島 千太	性別	男	生年月日	平成 年 月 日 生	才
	園・学校名	〇〇小学校			学年等	5年	
	学級等	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級指導		障害種別	<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級		障害種別 知的障害
	気障の害状・状況	診断名	自閉スペクトラム症				
	手帳の取得状況	手帳	等級		手帳	等級	
教育歴	幼稚園・保育所等	△△幼稚園					
	小学校	△△小学校入学 → 〇〇小学校 (2年時)					
	中学校						
	高等学校						
家庭に関する情報	住所	〒		家族構成			
		続柄	氏名	備考			
		父	玖島 〇〇				
	連絡先	母	玖島 〇〇				
		弟	玖島 〇〇	〇〇小学校 3年生			
関係機関に関する情報	実施日 (期間)	機関名	担当者	主な支援・助言内容等			
	〇年〇月〇日~ 現在	〇〇病院	〇〇 (医師)	・小児科主治医 ・月1回受診			
	〇年〇月〇日~ 現在	放課後等デイサービス 〇〇	〇〇 (作業療法士)	・毎週金曜日2時間 (集団療育→個別療育) ・作業療法 (身体を大きく動かす運動、少人数でのソーシャルスキル トレーニング、手指の巧緻性を高めるための活動)			
	〇年〇月〇日	〇〇特別支援学校	〇〇 (特支CO)	WISC-IV知能検査結果の説明、支援内容等について協議			
	〇年〇月〇日	県教育センター	〇〇 (指導主事)	特別支援学級での国語・算数の指導について 自立活動の指導目標・内容について			

秘

個別の教育支援計画

氏名	玖島 千太		主な記載者 (本人との関係)	〇〇 (担任)	年 月 日作成																				
本人に関する情報	願	<本人> ・交流学級の友達と仲良く遊びたい。 <保護者> ・安定した状態で学校生活を過ごしてほしい。																							
	主	<本人が好きで、できること、得意なこと、好ましい点> ・定着に時間はかかるが、一度身に付いた習慣は守ることができる。 ・ゆっくりではあるが、与えられた課題に最後まで取り組むことができる。 ・お気に入りの教材DVDは、繰り返し見て覚えている。 ・文字や写真、図表などを用いて説明すると内容を理解しやすい。 ・質問に対しては、「はい」「いいえ」で意思表示をすることができる。	<本人が嫌いなこと、苦手なこと、改善したい点> ・新しい活動や学習では不安が強く、かんしゃくを起こしたりその場を離れようとしたりする。また、自分の思い通りにできない時に、情緒不安定になることがある。 ・自分の気持ちや考えを的確に表現することが難しく、交流学級で自分から友達に話し掛けることは少ない。 ・ボタンの留め外しやひも結びなど指先を使う細かい運動が苦手である。 ・集団の中で話を聞いて理解することが難しく、話の一部分だけを捉えて行動することがある。 ・気になること（音や物など）があると、集中が途切れやすい。																						
	実	<家庭での生活上、困難な点> ・外出時の予定が変わると不機嫌になる。 ・衣服へのこだわりがあり、お気に入りの服しか着ない。 ・嫌いな食べ物は食べない。																							
	態	<検査結果> <table border="1"> <tr> <td>検査名</td> <td>WISC-IV 知能検査</td> <td>検査名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施機関</td> <td>〇〇特別支援学校</td> <td>実施機関</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施日</td> <td>平成〇年〇月〇日</td> <td>実施日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>結果</td> <td>FSIQ70 目で見て答えることの方が得意。細部を見て答えることが苦手。語彙が少なく、思いを適切に表現することが苦手。</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>資料等</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</td> <td>資料等</td> <td><input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</td> </tr> </table>				検査名	WISC-IV 知能検査	検査名		実施機関	〇〇特別支援学校	実施機関		実施日	平成〇年〇月〇日	実施日		結果	FSIQ70 目で見て答えることの方が得意。細部を見て答えることが苦手。語彙が少なく、思いを適切に表現することが苦手。	結果		資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	資料等	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	検査名	WISC-IV 知能検査	検査名																						
実施機関	〇〇特別支援学校	実施機関																							
実施日	平成〇年〇月〇日	実施日																							
結果	FSIQ70 目で見て答えることの方が得意。細部を見て答えることが苦手。語彙が少なく、思いを適切に表現することが苦手。	結果																							
資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	資料等	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し																						
支	<長期目標> ・交流学級の授業の中で、自分の意見を発表したり友達とかかわったりしながら学習に取り組むことができる。 <必要な配慮・支援> (◎は合理的配慮として本人・保護者と合意形成した内容) ◎安心して授業に参加できるよう、特別支援学級で、毎朝、時間割の確認を行い、一日の見通しをもたせる。 ◎意見を発表する機会につながるよう、必要に応じて授業の内容の理解について確認したり、理解を促す声掛けをしたりする。 ◎グループ活動などの際には、状況を見ながら教師が関わりを促す働きかけをする。 ・身に付けてほしい言葉カードを準備し、語彙を増やしていく。																								
援	以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。 <p style="text-align: center;">令和 年 月 日 保護者氏名</p>																								
方	<目標の評価> ・思いを表現することができるようになったことで、年度当初と比べて少しずつではあるが、交流学級での学習や遊びの中で、自分からかかわろうとする姿が増えてきた。交流学級で笑顔が増えてきた。																								
向	<配慮・支援の評価> ・一日の見通しや、行事についての事前連絡、クールダウンの支援は大変有効であった。今後も引き続き行うことが必要であるが、支援の量を減らしていくことができそうである。 ・言葉カードで視覚的な支援をしたことも有効であった。語彙はもっと増やしていく必要がある。																								
性	以上の情報を引き継ぐことに同意しました。 <p style="text-align: center;">令和 年 月 日 保護者氏名</p>																								



個別の指導計画（1学期）

学校名	〇〇小学校	学年	5年	氏名	玖島 千太
-----	-------	----	----	----	-------

	できること、得意なこと、好ましい点	苦手なこと、改善したい点
主学 な習 実上 態・ に生 つ活 い上 ての	<ul style="list-style-type: none"> ・定着に時間はかかるが、一度身についた習慣は守ることができる。 ・ゆっくりではあるが、与えられた課題に最後まで取り組むことができる。 ・お気に入りの教材DVDは、繰り返し見て覚えている。 ・文字や写真、図表などを用いて説明すると内容を理解しやすい。 ・質問に対しては、「はい」「いいえ」で意思表示をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい活動や学習では不安が強く、かんしゃくを起こしたりその場を離れようとしたりする。また、自分の思い通りにできない時に、情緒不安定になることがある。 ・自分の気持ちや考えを的確に表現することが難しく、交流学級で自分から友達に話しかけることは少ない。 ・ポタンの留め外しやひも結びなど指先を使う細かな運動が苦手である。 ・集団の中で話を聞いて理解することが難しく、話の一部分だけを捉えて行動することがある。 ・気になること（音や物など）があると、集中が途切れやすい。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の見通しとともに、1時間の授業の見通しをもたせるために毎時間のめあてを板書する。 ・学校行事等、通常と異なる活動を行う場合には、事前に時期・時間・内容等を知らせることで、見通しをもつことができるようにする。 ・集団の中で情緒が不安定になった時には、教師と一緒にその場を離れてクールダウンを行う。 ・身に付けてほしい言葉カードを準備し、語彙を増やしていく。
---------------	---

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	<p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仲間に入れて」「困っているので手伝ってください」など場に応じて自分の意思を言葉で伝えることができる。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の教師に対して、「～したい（～してほしい）」「〇〇して△△だった」など自分の気持ちを言葉で伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さいころトークやすごろくスピーチ等のゲームの中で、友達や教師と会話を楽しむ。 ・困った場面などにおいて、どのような解決方法があるかを考え、ロールプレイをする。 ・交流学級や職員室等に届け物をしたり、用件を伝えたりしながら、いろいろな人とやりとりをする。 ・学校や生活の中で、楽しかったことや苦手だったこと等について発表する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日接する担任、交流担任、教頭、養護教諭には、決まった場面では大きな声で抵抗なく話しかけることができるようになってきた。ただし、場面が変わると自分から話しかけることはほとんどなかった。 ・学校や生活の中で楽しかったことを発表することは、あらかじめ原稿を作り練習しておくことにより、特別支援学級の友達の前では、自信をもって発表することができるようになった。
国語 小学3年 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年に同じ。（2学年下に替える。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に配慮する指導内容は「音読」「経験したことを話す」「聞いて理解する」。 ・音読は教師と一緒に1日5分を目安に行い、内容を確認する。 ・「経験したことを話す」は、「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」のカードを示しながら、相手に伝わる内容を意識させる。話す内容の原稿をあらかじめ作っておき練習を重ね、本人の自信がついてから話す場を設定する。 ・「聞いて理解する」は、聞くことが苦手なため、指示は、名前を呼んで視線を教師に向けた後に短く行う。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「経験したことを話す」は、カードの言葉を示すだけでは、経験したことを思い出すことが困難な場合があった。写真を提示すると思い出しやすかった。原稿を作って練習しておくことで自信をもって発表することができた。 ・「聞いて理解する」は、名前を呼ばれると、視線を相手に向けてようになったが、話している途中で視線がそれることが多い。
社会 小学4年 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ・第4学年に同じ。（1学年下に替える。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習の事前指導で、日程・注意事項等を十分説明し、安心して参加できるように配慮する。見学先での質問事項はあらかじめ決めておく、ロールプレイで繰り返し練習をさせておく。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理場見学では、事前に練習していた通りに質問をすることができた。
算数 3年生 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年に同じ。（2学年下に替える。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等における配慮事項等と同じ。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・特記事項なし。
理科 小学4年 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ・第4学年に同じ。（1学年下に替える。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等における配慮事項等と同じ。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・特記事項なし。
音楽 小学5年 交流学級	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員を配置し、楽譜には階名を書き込み支援するなど、本児が学習のねらいを達成するための支援を行う。 ・「鑑賞」は、まず絵カードを指し示すことで気持ちを表現させ、言葉として発表できるように支援する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員を配置したことで、安心して学習参加することができた。 ・「鑑賞」では、拍の流れにのって身体を動かしたりリズムを感じ取り、自分の気持ちを絵カードから指し示すこともできたが、発表することには抵抗があり難しかった。2学期は、絵カードと文カードを組み合わせて、発表の話形として支援する。

教科等	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気づき等
教育課程 学びの場				
図画工作 小学5年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・「工作」は、はさみやカッター等道具の取り扱い時に「〇〇の上手な使い方カード」で、安全な使用方法について確認してから行わせる。 ・「鑑賞」は、好きな作品を指差し「ほくはこれが好きです」と言葉で言うことができるように促す。	○	・「工作」での道具の取り扱いは、カードの使い方を見て、使用法を意識することにより少しずつできるようになってきている。 ・「鑑賞」は、好きな作品を言葉で言うことができた。2学期は、「理由は、～です。」の話形も加えて発表できるようにする。
体育 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等と同じ。	◎	・運動の技能については、十分目標を達成している。 ・4月は、ゲームに負けた時に大声で泣いていたが、ゲームを始める前に負けたときの適切な対応についての絵カードを示しておくことにより、次第に負けることへの抵抗感が減ってきている。
家庭 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・特に配慮する指導内容は、「生活に役立つものの製作」 ・「生活に役立つものの製作」の単元は、支援員を配置する。裁縫道具の取り扱い時の支援を行うが、本人から必要な時に支援を依頼することができるように「〇〇先生、お願いします」「〇〇先生、教えてください」のカードを作り、使い方を説明しておく。	○	・「生活に役立つものの製作」は、針の糸通し、玉止め玉結びが難しく支援が必要であった。支援が必要ときに、カードを示して合図を出すことはできた。2学期は言葉で支援を求めることができるようになる。
道徳 小学5年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・めあてを板書する代わりに、時間の終わりに「自分でできることは自分でしよう」「ごめんなさいを言おう」「大人には、『です』『ます』で話そう」など本児が分かりやすい言葉でまとめる。	○	・まとめの言葉があることで、そのような行動をしようという意識付けになった。
外国語 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・友達との交流を円滑に行うために支援員を配置し、学習内容を本児にわかりやすく個別に補足説明してもらう。 ・ALTに本児の実態を伝え、質問に答えることができなくても笑顔で接し、次への意欲につながるように接してもらう。	○	・絵カードとジェスチャーが多く、単語も日常の外来語と似ているものが多かったため、支援員の補足説明がなくても参加可能であった。 ・ALTの「Good Job」の賞賛で安心して学習に参加していた。
総合的な学習の時間 小学5年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・特に配慮する指導内容は、「平和学習」 ・「平和学習」は、平和集会で発表する言葉を友達と一緒に安心して言うことができるように特別支援学級内での事前練習を繰り返しておく。少人数の前での発表に自信を付けてから交流学級の練習に参加し、言葉のタイミングや場所に慣れるように配慮する。	◎	・「平和学習」は、平和集会で友達と一緒に大きな声で自信をもって担当の言葉を発表することができた。
特別活動 小学5年 特別支援学級 及び交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等と同じ。	△	・〇〇クラブの活動は楽しみにしているが、友達に話し掛けることは少なかった。2学期はペアを組んだ相手に「どうぞ」「ありがとう」と言えるように、クラブ全体のルールとして指導していく。 ・委員会の当番や配達係の仕事はやる気はあったものの忘れがちだった。2学期は朝から委員会のネームカードを渡して忘れることへの予防策とする。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
R 年 月 日 : ~ :	保護者、校長、特支CO、担任	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の目標や支援内容等について ○1学期の目標と支援内容について合意
R 年 月 日 : ~ :	全職員	○1学期の目標と支援内容についての共通理解
R 年 月 日 : ~ :	保護者、校長、特支CO、担任	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の目標や支援内容等について ○1学期の取組内容と評価について、及び2学期の目標と支援内容について合意

知的障害
特別支援学級
小学校3年生

※一部を知的障害者である児童に
対する教育を行う特別支援学校
の各教科に替える教育課程

秘

プロフィール票

作成日 (年 月 日)

本人に関する情報	氏名	くしま せんか 玖島 千花	性別	女	生年月日	平成 年 月 日 生	才
	園・学校名	〇〇小学校			学年等	3年	
	学級等	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級指導		障害種別	<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級		障害種別 知的障害
	気障の害状・況病	診断名	知的障害、心房中隔欠損症				
		手帳の取得状況	療育	手帳	等級	A2	手帳
教育歴	幼稚園・保育所等	〇〇認定こども園					
	小学校	〇〇小学校入学					
	中学校						
	高等学校						
家庭に関する情報	住所	〒		家族構成			
				続柄	氏名	備考	
	連絡先	☎		父	玖島 〇〇		
		☎		母	玖島 〇〇		
	備考			姉	玖島 〇〇	〇〇小学校 6年生	
関係機関に関する情報	実施日(期間)	機関名	担当者	主な支援・助言内容等			
	〇年〇月〇日～ 現在	〇〇病院	〇〇 (医師)	<ul style="list-style-type: none"> 小児科主治医 月1回受診 			
	〇年〇月〇日～ 現在	〇〇大学病院	〇〇 (医師)	<ul style="list-style-type: none"> 循環器科主治医(心房中隔欠損症関係) 半年に1回受診 			
	〇年〇月〇日	〇〇特別支援学校	〇〇 (特支CO)	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の指導について 国語、算数の指導について 			

秘 個別の指導計画（1学期）

学校名	〇〇小学校	学年	3年	氏名	玖島 千花
-----	-------	----	----	----	-------

主学 習 実 上 態 ・ に 生 つ 活 い 上 て の	できること、得意なこと、好ましい点	苦手なこと、改善したい点
	<ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれると手を挙げて応答することができる。 ・友達に話しかけられると笑顔になることが多い。 ・発音が不明瞭であるが、一音ずつ教師の言葉を真似しようとする。 ・簡単な指示は理解できることが多い。 ・毎日のルーティンは、促されて取り組むことができる。 ・音楽が大好きで、曲に合わせて楽しそうに身体を動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレを知らせることができない。 ・ボタンの留めはずし等の日常の動作で苦手なところがある。 ・相手の様子を見ながら教室を飛び出すなど、相手の反応を見て行動する様子がある。 ・言葉の理解が十分でなかったり数が理解できなかったりするため、指示通りの行動ができないことがある。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な指示は理解できるので、教師が積極的に話しかけることにより意思表示の機会を増やす。 ・指示の後は本児の自らの行動を待ち、過度の支援にならないように配慮する。 ・できるだけ生活年齢相応の対応をする。 ・日常と違う行事等の際には、絵カード等を利用して、先の見通しをもてるように支援する。
---------------	---

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	<p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師に「はい」「いいえ」や「したい」「ください」を身振りや絵カードを示して伝えることができる。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の質問に、「〇カード」「×カード」のどちらかを指差して「はい（する）」「いいえ（しない）」を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇カード」「×カード」のどちらかを指差して「はい（する）」「いいえ（しない）」については、興味関心の高いもの（音楽を聴く）等から取り組む。 ・「〇」「×」の因果関係を理解させる。 ・「〇×カード」の因果関係が理解できてきたら、身振り（首を立てに振る〇、首を横に振る×）で表現させる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「音楽を聴く」かどうかを、「〇カード」「×カード」を指差して意思表示することは、何度か取り組むことでできるようになった。 ・身振りで意思表示（首を立てに振る時は〇、首を横に振る時は×）についてもできつつある。 ・「トイレ」については、「トイレに行く？」の質問に意思表示できるようになってきたが、自分から身振りでトイレに行きたいと表現することはまだ見られない。「トイレ」の身振りを定着させる必要がある。
国語 知的代替 特別支援学級	<p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前のひらがなが分かり書くことができる。 ・教師が指示した絵カードを選ぶことができる。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前のひらがなが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のパターンを「今日のお話」「五十音表の読み」「名前のひらがなぞり」「積み木で身近な言葉を作る」「読み語り」でルーティン化する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・五十音表の中から自分の名前のひらがなを選ぶことができるようになった。 ・ルーティンの学習時に「次は何ですか」という質問に、教材を指差して答えることができた。
算数 知的代替 特別支援学級	<p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10までの数が分かり書くことができる。 ・色や形、大小の弁別ができる。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5までの数が分かり書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーティンとして、パズルボックス、10までの数さしリング、数字カード並べ、数字のなぞり書き、5までの指遊びを行う。 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・3までの数は、数字を見て具体物をそろえることができた。 ・数字を書くことは、大きくなぞり書きすることも難しかったが、3までの指示された数字カードを選ぶことはできた。
図画工作 知的代替 特別支援学級	<p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現したいことを様々な材料や用具を使って工夫しながら作ることができる。 ・友達の作品などの形や色のよさや面白さを感じることがができる。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料から使いたい物を選択して作ることができる。 ・同学年の友達の作品の面白いところに気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料や用具を準備しておき、本児が使いたい物を選択できるようにする。 ・同学年の友達の作品を鑑賞することにより、たくさんの作品に親しむ経験を増やし、よさや面白さを感じ取ることができるようにする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料の中から、本児が好きなプラスチック素材の物を選択して作ることができた。 ・鑑賞については、友達の作品に関心を向けることはできたが、よさや面白さに気付くことは難しかった。 ・教師や友達から作品について話し掛けられたり認められたりすることが多く、笑顔で喜びを表現していた。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
音楽 知的代替 交流学級	【交流及び共同学習の目標】 ・音楽に合わせて身体を動かしたり楽器を演奏したりして、表現する楽しさを味わう。	・音楽担当に目標や指導上の配慮事項を伝え、音楽に合わせて身体を動かしたり、声を出したりした際は賞賛するようにする。 ・楽器の演奏支援等のために支援員を配置する。	○	・音楽が流れると身体を動かしたり、歌ったりすることができた。 ・リコーダーは、連指が難しかった。2学期以降は、デスクベル等本児が扱いやすい楽器で代替演奏させたい。
体育 小学1年 交流学級	【交流及び共同学習の目標】 ・第1学年に同じ。 (2学年下に替える。) ・各種の運動遊びを楽しく行い、基本的な身体の動かしかたや体力を付ける。	・交流学級担任に目標の違いについて説明し、楽しんで身体を動かすことができるようにする。 ・支援員を配置し、マンツーマンで体調面の変化を観察し安全面に十分留意する。	○	・リレーでは、バトンゾーンやワープゾーンを利用して走る距離を短くして走った。 ・水泳指導時には、唇の色や肌の様子の変化に留意し、無理のないように参加させた。
総合的な学習の時間 小学3年 特別支援学級	・当該学年に同じ。 ただし、目標・内容の一部を取り扱わない。	・テーマは同学年と同じものを扱い、指導は特別支援学級で行う。 ・指導内容については、同学年と連携を取り合いながら、特に共同的に学ぶということを意識した部分を選択して行う。	○	・地域のふれあい清掃に参加し、ごみ拾い活動を行った時には、お辞儀をしてあいさつすることができた。
外国語活動 小学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・ALTに本児の状態を伝え、笑顔で接することで次への意欲につなげる。	◎	・絵カードに活動に応じたイラスト等を描いていたため、本児も分かりやすかったようであった。ALTとも仲良くなることができ、昼休みに一緒に遊ぶなどしていた。
日常生活の指導 知的代替 ※生活、道徳を合わせて指導 特別支援学級	【年間目標】 ・社会生活のいろいろなルールを理解する。 ・友達と仲良くし、日常生活や学習に進んで取り組もうとする。 【短期目標】 ・あいさつをすることができる ・日直の仕事をするすることができる。	・時間割上で毎日1校時に設定し、カレンダーの学習、天気、健康観察、一日の予定の確認、あいさつ指導等からなる朝の会を行う。決まったルーティンで安定した学校生活を送ることができるようにする。	○	・朝の会は、順番カードを見ながら行うことにより、ルーティンとして身に付いた。 ・時間割を忘れて自分で教室移動していないことがあったが、交流学級の背面黒板の1日の時間割の横に本児の時間割カードを貼って、交流学級の友達にも予定が分かるようにしており、友達が声を掛けている様子も見られた。 ・カレンダー学習は、毎日継続している。数字を指差し一緒に数えているが、理解はまだ十分ではない。
生活単元学習 知的代替 ※理科、社会を合わせて指導 特別支援学級	【年間目標】 ・自然に親しみ季節の変化を感じ取ることができる。 ・地域の人々の社会生活に興味をもつことができる。 【短期目標】 ・植物の成長に興味をもつことができる。 ・校外での安全な歩き方ができる。	・同学年の理科や社会の校外学習の時には、内容目標等検討し、できるだけ担任同伴で参加する。 ・学級園での野菜作りを年間活動として行い、日常生活の時間に毎朝、水やりと草取りを行うようにする。	○	・社会の校外学習「校区内探検」に担任と一緒に参加した。担任と一緒にいれば、手をつなぐに安全に歩くことができた。 ・学級園の水やりは、一箇所だけに集中してしまいがちで「シャワーを上に向けて」「次は〇〇」という具体的な指示を出しながら行った。草取りは、毎日5本ずつ一緒に数えながら行った。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議(・)・合意内容(○)
R 年 月 日 : ~ :	保護者、校長、特支CO、担任	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の目標や支援内容等について ○1学期の目標と支援内容について合意
R 年 月 日 : ~ :	全職員	○1学期の目標と支援内容についての共通理解
R 年 月 日 : ~ :	保護者、担任	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の目標や支援内容等について ○1学期の取組内容と評価について、及び2学期の目標と支援内容についての合意

知的障害 特別支援学級

中学校 1 年生

※一部を知的障害者である生徒に
対する教育を行う特別支援学校
の各教科に替える教育課程

秘

プロフィール票

作成日 (年 月 日)

本人に関する情報	氏名	くしま せんた 玖島 千太	性別	男	生年月日	平成 年 月 日 生	才
	園・学校名	〇〇中学校			学年等	1年	
	学級等	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級指導 障害種別			<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 障害種別 知的障害		
	気障害の害状・病況	診断名	知的障害、自閉スペクトラム症				
	手帳の取得状況	療育	手帳	等級	A2	手帳	等級
教育歴	幼稚園・保育所等	〇〇幼稚園					
	小学校	〇〇小学校卒業					
	中学校	〇〇中学校入学					
	高等学校						
家庭に関する情報	住所	〒		家族構成			
		続柄	氏名	備考			
	連絡先	☎	父	玖島 〇〇			
		☎	母	玖島 〇〇			
		☎	妹	玖島 〇〇	〇〇小学校 3年生		
	備考		弟	玖島 〇〇	〇〇小学校 1年生		
関係機関に関する情報	実施日(期間)	機関名	担当者	主な支援・助言内容等			
	〇年〇月〇日～ 現在	〇〇病院	〇〇 (医師)	・かかりつけ小児科医			
	〇年〇月〇日～ 現在	放課後等デイサービス 〇〇	〇〇 (作業療法士)	・毎週火・金曜日2時間(個別療育) ・作業療法(全身を使ったサーキットトレーニング、手指の巧緻性を高める為の支援)			
	〇年〇月〇日	〇〇特別支援学校	〇〇 (特支CO)	特別支援学級における教科指導について			
	〇年〇月〇日	県教育センター	〇〇 (指導主事)	特別支援学級における自立活動の指導について			

個別の教育支援計画

氏名	玖島 千太		主な記載者 (本人との関係)	〇〇 (担任)	年 月 日作成																				
願	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校では落ち着いて学習に取り組みたい。 																								
	<p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> かんしゃくを起こすことを減らして、落ち着いて学校生活を送ってほしい。 できるだけ周りの友達と関わって、仲良くなってほしい。 																								
本人に関する情報	<p><本人が好きで、できること、得意なこと、好ましい点></p> <ul style="list-style-type: none"> 好きなアニメのキャラクターの名前をよく覚えている。好きなテレビ番組やDVDの物まねを身振り手振りを交えて楽しく表現できる。 自分の名前や「父母」、漢数字等の簡単な漢字は書ける。 5までの数字の足し算や引き算であれば、指を使って計算ができる。具体物を使えば、20までの数字であれば足し算や引き算ができる。 係の仕事や作業など、約束を守って熱心に取り組むことができる。 相撲やボールを使った簡単な遊びを楽しく行い、特にボールを投げたり、転がしたり、打ったりすることが得意である。 		<p><本人が嫌いなこと、苦手なこと、改善したい点></p> <ul style="list-style-type: none"> ひらがなやカタカナは、手本がないと書くことが難しい文字がある。 言葉が不明瞭である。 長い時間姿勢を保持することが難しい。 衣服の着脱に時間がかかり、ボタンを留めることが難しい。 排泄のタイミングが掴めず、尿失禁をしてしまうことがある。 気分がむらぐがあり、機嫌が悪いときには動こうとしない。 好きなことに夢中になると、時間や約束を忘れてしまい、次の行動へ移ることが難しい。 活動に関係なく、前日に見たテレビ番組の物まねをして、自分のペースで過ごそうとするところがある。 周りの友達に対して、強い口調で不快を訴えることがある。 																						
	<p><家庭での生活上、困難な点></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が決めたスケジュール通りに取り組もうとする傾向が強い。急な変更等に対応できなくて、情緒が不安定になってしまう。 																								
	<p><検査結果></p> <table border="1"> <tr> <td>検査名</td> <td>田中ピネーV</td> <td>検査名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施機関</td> <td>〇〇市教育委員会 就学相談</td> <td>実施機関</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施日</td> <td>平成〇年〇月〇日</td> <td>実施日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>結果</td> <td>IQ40 語彙が少ないため、指示を正しく聞き取ったり思いを適切に表現したりすることが難しい。鉛筆等を使う際にぎこちなさ有り。手先を使う作業に苦手さがある。</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>資料等</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</td> <td>資料等</td> <td><input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</td> </tr> </table>					検査名	田中ピネーV	検査名		実施機関	〇〇市教育委員会 就学相談	実施機関		実施日	平成〇年〇月〇日	実施日		結果	IQ40 語彙が少ないため、指示を正しく聞き取ったり思いを適切に表現したりすることが難しい。鉛筆等を使う際にぎこちなさ有り。手先を使う作業に苦手さがある。	結果		資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	資料等	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	検査名	田中ピネーV	検査名																						
	実施機関	〇〇市教育委員会 就学相談	実施機関																						
実施日	平成〇年〇月〇日	実施日																							
結果	IQ40 語彙が少ないため、指示を正しく聞き取ったり思いを適切に表現したりすることが難しい。鉛筆等を使う際にぎこちなさ有り。手先を使う作業に苦手さがある。	結果																							
資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	資料等	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し																						
<p><長期目標></p> <ul style="list-style-type: none"> スケジュールを見て、見通しをもちながら、落ち着いて学習できる。 情緒が不安定になったときに、休憩スペースで落ち着くことができる。 																									
<p><必要な配慮・支援> (◎は合理的配慮として本人・保護者と合意形成した内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎特別支援学級で、毎朝時間割の確認を行い、一日の見通しをもたせる。 ◎見通しをもたせるためにモデルやスケジュールを提示する。 ◎各教科等で、日常生活に関連し、興味関心がある題材等を設定することで主体的に学習に向かわせ、生活に必要な基礎的・基本的な「読む」「書く」「計算する」の力が身に付くようにする。 ◎情緒が不安定なときは、状況を見て、教室内の休憩スペースでクールダウンを行う。 																									
<p>以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。</p> <p style="text-align: center;">令和 年 月 日 保護者氏名</p>																									
年度末評価	<p><目標の評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科等でスケジュールを提示したことで、見通しをもちながら落ち着いて学習に取り組めるようになってきた。 急な変更があると不安定になることがあるが、休憩スペースで落ち着くまでの時間が短くなってきている。 																								
	<p><配慮・支援の評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 一日の見通しをもたせるために、毎朝一日の時間割の確認を行ったが、落ち着いて生活をすることができ、効果が見られた。 やりたいことに夢中になり過ぎると、授業者の指示や意図が通じず、学習に気持ちが向かわないという面も見られた。好きな活動(絵本)で気分転換を図ったり、落ち着くスペースを活用することで、落ち着いて学習に取り組むことが増えてきた。 お金、時計(デジタル)、ひらがな、簡単な漢字などを理解できるようになってきた。 																								
<p>以上の情報を引き継ぐことに同意しました。</p> <p style="text-align: center;">令和 年 月 日 保護者氏名</p>																									



個別の指導計画（1学期）

学校名	〇〇中学校	学年	1年	氏名	玖島 千太
-----	-------	----	----	----	-------

	できること、得意なこと、好ましい点	苦手なこと、改善したい点
主学 な習 実上 態・ に生 つ活 い上 ての	<ul style="list-style-type: none"> 好きなアニメのキャラクターの名前をよく覚えている。好きなテレビ番組やDVDの物まねを身振り手振りを交えて楽しく表現できる。 自分の名前や「父母」、漢数字等の簡単な漢字は書ける。 5までの数字の足し算や引き算であれば、指を使って計算ができる。具体物を使えば、20までの数字であれば足し算や引き算ができる。 係の仕事や作業など、約束を守って熱心に取り組むことができる。 相撲やボールを使った簡単な遊びを楽しく行い、特にボールを投げたり、転がしたり、打ったりすることが得意である。 	<ul style="list-style-type: none"> ひらがなやカタカナは、手本がないと書くことが難しい文字がある。 言葉が不明瞭である。 長い時間姿勢を保持することが難しい。 衣服の着脱に時間がかかり、ボタンを留めることが難しい。 排泄のタイミングが掴めず、尿失禁をしてしまうことがある。 気分がむらがあり、機嫌が悪いときには動こうとしない。 好きなことに夢中になると、時間や約束を忘れてしまい、次の行動へ移ることが難しい。 活動に関係なく、前日に見たテレビ番組の物まねをして、自分のペースで過ごそうとするところがある。 周りの友達に対して、強い口調で不快を訴えることがある。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等で、日常生活に関連し、興味関心がある題材等を設定することで主体的に学習に向かわせ、生活に必要な基礎的・基本的な「読む」「書く」「計算する」の力が身に付くようにする。 見通しをもたせるためにモデルやスケジュールを提示するとともに、情緒が不安定なときは、状況を見て、教室内の休憩スペースでクールダウンを行う。 一つの活動・学習の終わりが明確に分かるようにタイマー等を活用し、教師の声掛け等の支援を徐々に減らす。
---------------	---

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	【年間目標】 ・スケジュールを活用して、三つの内容（活動）について見通しをもちながら取り組むことができる。 【短期目標】 ・AをしたらBをするなど、二つの内容（活動）が示されたスケジュール表を活用して取り組むことができる。	・「自立活動の指導の時間」を設定せず、各教科等の指導を通じて適切に指導する。	○	・一つ一つの活動（学習内容）は、時間（タイマー）・量・回数などを視覚的に示して見通しをもたせることで好きな活動も終わることができるようになった。 ・一つの活動が終わったら次に何をするのかスケジュールを確認することは定着していない。活動終了時にスケジュールに線を引かせる（見え消し）ことでスケジュールに注目できるようにする。
国語 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・自分の思いを書いたり、話したりする力を身に付ける。 【短期目標】 ・手本なしで、ひらがなやカタカナの読み書きができる。 ・経験に基づき、文を書き、読むことができる。	・学級担任による指導を行う。 ・何を書いてよいか分からず情緒不安定にならないよう、経験したことをイメージできる写真や絵をもとに「いつ」「どこで」等の項目に沿って書かせる。 ・ひらがなやカタカナを読んだり書いたりする場合は、回数、時間等の見通しをもたせてから取り組ませる。	△	・ひらがなやカタカナは手本なしで正しく書くことができるようになった。 ・単語をまとまりとして捉えられず拾い読みすることがある。 ・読み書きの学習中、注意が持続しないので、興味関心を引き付けるような手立てが必要である。 ・「いつ」「どこで」など単語を書くことはできたが、文章化することが難しかった。
数学 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・日常生活に必要な初歩的な数量の処理や計算をすることができる。 【短期目標】 ・デジタル時計やカレンダーの使い方が分かる。	・学級担任による指導を行う。 ・スケジュールと時間の関係が理解できるように、プリント学習等にデジタル時計を活用しながら始めたり終わったりする経験を通して理解できるようにする。	○	・ゲームを通して、得点計算をさせることで、数の大小について体験的に学ばせることができた。 ・計算ブロックを使うと、足し算や引き算ができるが、式で示すと即答できない。 ・数唱は、0から20までは数えられることができる。20以降の数字も数えられるように具体物等を使って定着を図る。
音楽 知的代替 交流学級	【交流及び共同学習の目標】 ・表現するために必要な歌唱、器楽、身体表現の技能を身に付ける。 ・協働して音楽活動をする楽しさを感じることができる。	・支援員を配置する。 ・教科担任に事前に、本時の授業内容を教えてもらい、見通しをもって学習に参加できるようにする。 ・演奏したい楽器を選ばせることで意欲的に演奏に取り組むことができるようにする。	○	・活動の見通しをもたせたり、本人に演奏したい楽器を選択させたりすることで、落ち着いて学習に取り組むことができた。 ・2学期は、合奏や合唱を録音し、鑑賞することで、協働する楽しさを感じさせた。
美術 中学1年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・教科担任による特別支援学級での個別指導を行う。 ・完成のイメージがもちやすいように、モデルを示すようにする。 ・色使いはさまざまな色の中から選択しながら描くことができるようにする。	○	・教室で彩色をする際に、風景をタブレットPCで確認しながら行ったので、取り組みやすそうであった。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気づき等
保健体育 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・支援員を配置して、複雑な動きや、具体的な身体の動かし方等は支援員がモデルを示すようにする。 ・球技等におけるルールは、理解できるルールを視覚的に示すようにする。 ・保健に関する学習は特別支援学級において教科担任が個別指導を行う。	○	・集団行動では、指示に対して、自ら判断し、行動することは難しいが、支援員がモデルを示したり、周りの生徒の言葉掛け等により活動に参加することができた。 ・新体カテストでは、上体起こしは1回もできなかったが、ハンドボール投げ等、生き生きと活動する姿が見られた。 ・水泳は、小学校からスイミングスクールに通っていたこともあり、水を怖がる様子もなく、楽しそうにしていた。
職業・家庭 知的代替 特別支援学級	【年間目標】 ・ものづくりなどの体験的な活動を通して、生活に必要な基本的な知識や技能を身に付ける。 【短期目標】 ・作業の約束を守って、安全に作業に取り組むことができる。	・学級担任による指導を行う。 ・制作活動では何をどのようにすればよいのか、完成のモデルを示したり、一つ一つの工程を写真等で視覚的に示したりして見通しがもてるようにする。 ・安全面の配慮については、危険な場所や部分等は強調して繰り返し伝え、教師と一緒に行うようにする。	◎	・作業の準備、作業活動、作業の片付けなどをスケジュールの提示や繰り返しのある活動に取り組んだことで、主体的に取り組む様子が見られるようになった。
総合的な学習の時間 中学1年 特別支援学級及び交流学級	・当該学年に同じ。	・特別支援学級で行うが、内容によっては交流学級で行う。 ・絵や写真等で活動を振り返らせ、情報を整理できるようにする。	◎	・地域探訪を交流学級の友達と一緒に楽しみながら行い、地域の方々にあいさつをすることができた。 ・タブレットPCの活用により、交流学习において「書くこと」「意思を伝えること」がスムーズにできるようになった。 ・地域探訪新聞作りでは、活動の様子を絵で描いたり、短い言葉ではあるが、自分の言葉で感想を書くことができた。
日常生活の指導 知的代替 ※国語、生活、道徳を合わせて指導 特別支援学級	【年間目標】 ・時間割を手がかりに一日の見通しをもって行動する。 【短期目標】 ・教師の支援を受けながら日課に沿って行動する。	・朝の会の流れをパターン化し、同じ生活リズムでスタートできるようにする。	○	・自分のペースで過ごそうとすることがあり、気持ちの切り換えをすることが難しかった。対応の仕方や学習課題に向かわせるための意図的な働きかけについて、市内の特別支援教育部会の先生に助言をもらった。 ・情緒が不安定な場合は、登校後にクールダウンできる場所で、好きな活動に取り組むことで、情緒を安定させることができた。 ・日課表は文字カードで理解できた。
生活単元学習 知的代替 ※理科、社会、道徳を合わせて指導 特別支援学級	【年間目標】 ・教科の学習で習得した知識や技能を、実際の生活の中で応用しながら使っていく力を身に付ける。 【短期目標】 ・昆虫やメダカ等、生きものの飼育活動を通して、育つしくみや命の尊さ、自然のかかわり方を理解する。 ・身近な地域や日本について、関心を高める。	・本生徒の興味関心が高い活動では、特に終わりを明確に（量、時間等）で示すようにする。 ・情緒が不安定になったときには、安全面を最優先させ、周囲の生徒に怪我等がないように十分配慮する。	○	・メダカやザリガニ等の生き物が好きで、小学校の時の飼育の経験を思い出しながら毎日の日課として世話することができた。 ・地図学習については、課題設定が教師主導であり、学習の有用性を感じさせる働きかけが十分ではなかったため、興味関心を高めることができなかった。 ・地図パズルに意欲的に取り組み、日本の各県の位置を47都道府県のうち30都道府県、正しく理解することができた。
作業学習 知的代替 ※職業・家庭、道徳を合わせて指導 特別支援学級	【年間目標】 ・各作業を通して、勤労の尊さや喜びを感じ、根気強く働く習慣を身に付ける。 【短期目標】 ・安全に留意して、進んで作業に取り組むことができる。	・工具の使用時は、安全面に留意し必ず教師と一緒に行う。 ・見通しをもちながら完成の喜びや成就感が味わえるように、作業工程が簡単で、短時間で一つの製品ができるものを取り上げる。	◎	・作業中は、教師の指示に従い、意欲的かつ安全に取り組むことができた。 ・道具や工具の扱いは、繰り返しながら教師の支援を減らすことで、一人で使えるようになってきた。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
R 年 月 日 : ~ :	保護者、校長、特支CO、 学年主任、担任、養護教諭	・今年度の本人に対する支援について ○個別的教育支援計画に基づいて今年度の年間目標（短期目標）及び具体的な指導・支援の方向性について ○保護者の意向を受け、交流学习の中で本人についての説明を行う
R 年 月 日 : ~ :	全職員	○今年度の年間目標（短期目標）及び具体的な指導・支援の方向性についての共通理解
R 年 月 日 : ~ :	保護者、特支CO、学年主任、 担任、養護教諭	・個別的教育支援計画・個別の指導計画の目標や支援内容等について ○1学期の取組内容と評価について、及び2学期の目標と支援内容についての合意

事例 4

自閉症・情緒障害

特別支援学級

小学校5年生

※知的障害のない児童の教育課程

秘

プロフィール票

作成日 (年 月 日)

本人に関する情報	氏名	おおむら たろう 大村 太郎		性別	男	生年月日	平成 年 月 日 生		才	
	園・学校名	〇〇小学校				学年等	5年			
	学級等	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級指導 障害種別				<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 障害種別 自閉症・情緒障害				
	気障の害状・病況	診断名	自閉スペクトラム症							
	手帳の取得状況	手帳	等級		手帳	等級				
教育歴	幼稚園・保育所等	〇〇幼稚園								
	小学校	〇〇小学校入学								
	中学校									
	高等学校									
家庭に関する情報	住所	〒			家族構成					
		続柄	氏名	備考						
		父	大村 〇〇							
	連絡先	母	大村 〇〇							
		妹	大村 〇〇		〇〇小学校 2年生					
備考										
関係機関に関する情報	実施日(期間)	機関名	担当者	主な支援・助言内容等						
	〇年〇月〇日～ 現在	〇〇病院	〇〇 (医師)	・かかりつけ小児科医(服薬あり)						
	〇年〇月〇日～ 現在	放課後等デイサービス 〇〇	〇〇 (作業療法士)	・毎週月・木曜日2時間(集団療育→個別療育) ・作業療法(少人数又は個別のソーシャルスキルトレーニング、視覚認知を高めるための活動)						
	〇年〇月〇日	〇〇市教育委員会	〇〇 (指導主事)	就学に関する相談						
	〇年〇月〇日	県教育センター	〇〇 (指導主事)	落ち着いて学習に取り組むための指導・支援について						

個別の教育支援計画

氏名	大村 太郎		主な記載者 (本人との関係)	〇〇 (担任)		年 月 日作成																														
本人に関する情報	願 望	<本人> ・JRで働きたい。																																		
		<保護者> ・算数、国語をもっと分かるようになってほしい。 ・学校を楽しく過ごしてほしい。																																		
	<本人が好きなおこと、できること、得意なこと、好ましい点> ・計算が速く得意。 ・歴史上の人物や年表を覚えるのが得意。 ・パソコンやタブレットPCを使うことが得意。 ・家庭ではゲームをしたり、インターネットで動画を見たりすることが好き。 ・毎週決まったテレビ番組を見るのが好き。			<本人が嫌いなこと、苦手なこと、改善したい点> ・漢字を書いたり、覚えたりすることが苦手。 ・文章の理解が苦手。 ・算数の図形や表やグラフの読み取りが苦手。 ・体育等、体を動かすことが苦手。 ・整理整頓が苦手。 ・気持ちやしたいことを言葉で伝えることが難しい。 ・人との距離感や場の雰囲気をつかむことが難しい。 ・急な予定変更があるとかんしゃくを起こす。 ・少しずつ食べられるものが増えてきているが、偏食があり決まったメニューばかり食べようとする。																																
	主 実 態	<家庭での生活上、困難な点> ・偏食が強く、決まったメニューしか食べない。 ・予定を予め教えると落ち着いて過ごすことが増えてきたが、急な予定変更になるとかんしゃくを起こす。 ・外遊びをすることがなく、ゲームやインターネットで遊ぶことが多い。																																		
		<検査結果> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>検査名</td> <td colspan="2">WISC-IV</td> <td>検査名</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>実施機関</td> <td colspan="2">〇〇教育センター</td> <td>実施機関</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>実施日</td> <td colspan="2">平成〇年〇月〇日</td> <td>実施日</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>結果</td> <td colspan="3">FSIQ85 聞いて理解したり行動に移したりするまでに時間が必要。位置を正しく捉えることが苦手。</td> <td>結果</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>資料等</td> <td colspan="3"> <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し </td> <td>資料等</td> <td colspan="2"> <input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し </td> </tr> </table>					検査名	WISC-IV		検査名			実施機関	〇〇教育センター		実施機関			実施日	平成〇年〇月〇日		実施日			結果	FSIQ85 聞いて理解したり行動に移したりするまでに時間が必要。位置を正しく捉えることが苦手。			結果			資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し			資料等
検査名	WISC-IV		検査名																																	
実施機関	〇〇教育センター		実施機関																																	
実施日	平成〇年〇月〇日		実施日																																	
結果	FSIQ85 聞いて理解したり行動に移したりするまでに時間が必要。位置を正しく捉えることが苦手。			結果																																
資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し			資料等	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し																															
支 援 の 方 向 性	<長期目標> ・学校の時間割や行事等の予定を確認し、一日を落ち着いて過ごすとともに、学習活動の流れを確認することで、見通しをもって学習に取り組む。 ・視覚的な教材や手立てを手がかりに、各教科等の学習内容の理解を深める。 <必要な配慮・支援> (◎は合理的配慮として本人・保護者と合意形成した内容) ◎特別支援学級で、毎朝、時間割を確認する。また、週の始めと終わりには週予定表を確認する。 ◎活動の流れを視覚的に示すことで、活動に対する見通しをもたせる。 ◎情緒が不安定なときは、集団から離れたり、クールダウンのスペースを使用したりして落ち着かせる。 ・図形やグラフ等、注目させたい箇所に印を付けさせる。 ・文章等にはイラストや写真を使って、説明を補いやすくする。																																			
以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。 令和 年 月 日 保護者氏名																																				
年 度 末 評 価	<目標の評価> ・急な予定の変更の際は、不安な表情や落ち着かない様子が見られたが、視覚的に変更内容を示すことで大きく混乱することは無くなった。今後は予定変更に対する不安を自分から周囲の教員に伝え、確認する手立てが必要である。 ・マーカーで印を付けることにより重要な言葉や数値等を捉えやすくなっている。今後は自分から印を付けることができるようにしていく。 <配慮・支援の評価> ・今後は、特別支援学級のスケジュール(ホワイトボード)を、スケジュール帳等、自分で記入できるものにしていくと実用性が広がる。 ・今年度は、クールダウンのスペースを利用することは無かった。 ・教科書等の印として赤色の蛍光ペンを使用した。教科書に色が着くこと、間違えて印を付けてしまうことに不快感を示していたので、消せるタイプの蛍光ペンに変更する。																																			
以上の情報を引き継ぐことに同意しました。 令和 年 月 日 保護者氏名																																				



個別の指導計画（前期）

学校名	〇〇小学校	学年	5年	氏名	大村 太郎
-----	-------	----	----	----	-------

	できること、得意なこと、好ましい点	苦手なこと、改善したい点
主学 な習 実上 態・ に保 育つ い上 ての	<ul style="list-style-type: none"> ・計算が速く得意。 ・歴史上の人物や年表を覚えるのが得意。 ・パソコンやタブレットPCを使うことが得意。 ・家庭ではゲームをしたり、インターネットで動画を見たりすることが好き。 ・毎週決まったテレビ番組を見るのが好き。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を書いたり、覚えたりすることが苦手。 ・文章の理解が苦手。 ・算数の図形や表やグラフの読み取りが苦手。 ・体育など体を動かすことが苦手。 ・整理整頓が苦手。 ・気持ちやしたいことを言葉で伝えることが難しい。 ・人との距離感や場の雰囲気をつかむことが難しい。 ・急な予定変更があるとかんしゃくを起こす。 ・少しずつ食べられるものが増えてきているが、偏食があり、決まったメニューばかり食べようとする。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な語句、数値、図形等、注目させたい箇所にマーカーやシールを使って印を付ける。 ・文章にはイラストや写真を使って、文章の内容をイメージしやすくする。 ・一時間の見通しをもたせるためにスケジュールを提示するとともに、情緒が不安定なときは、状況を見て、教室内の休憩スペースでクールダウンを行う。
---------------	---

教科等	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
教育課程 学びの場				
自立活動	<p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の偏やつくりをよく見て、正しく書くことができる。 ・自分の感情を理解するとともに、場面や状況に応じて質問したり要求を伝えたりすることができる。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タングラム、ジオボード等補助線や手がかりとなる目印をもとに、見本と同じ形を作ることができる。 ・新しい「コミュニケーションカード」の意味を知り、自分の気持ちやしたいことに合わせて選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚認知、空間認知を高める内容では、スティック体操、タングラム、ジオボード、漢字パズル、タブレットPCのビジョントレーニングアプリ等を用いて指導する。（自立活動の時間） ・情緒の安定を図る内容では、「気持ちの温度計」「今、どんな気持ち」「コミュニケーションカード」を用いて、自分の気持ちを表す言葉を増やすとともに、不安になる前に気持ちが落ち着く方法や、周囲の人へ要求を伝える手段について指導する。（自立活動の時間、朝の会、帰りの会） ・活動の流れを示すボードに変更カードを掲示し、変更があることを事前に知らせる。（自立活動の時間、休み時間） 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・タングラム（5ピース、補助線有）、ジオボード（4×4、ゴム色分け有）は見本を見て間違いなくできる。今後は補助線やゴムの色を徐々に減らしていく。 ・1日の振り返りでは、自分の気持ちをカードで選ぶ際、「たのしい」ばかりを選んでしたが、場面にあわせ、「うれしい」「面白い」等を選ぶことが増えてきた。 ・交流学級担任に「クールダウン」のカードを渡し、その場を離れることができるようになってきた。今後は言葉を添えることやカードを渡した相手の承認を得てから場を離れること等を合わせて指導する。
国語 小学5年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	<ul style="list-style-type: none"> ・音読は、教科書に文節ごとに印をつけ、文節を意識して読ませる。教師と一緒に1日1回行い、家庭学習として毎日1回ずつ読むようにする。 ・「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」に対応した箇所にマーカーを引かせる。 ・新出漢字の練習は手本に点の箇所や線の数を意識しやすくように印を付ける。読みカードと漢字パズルを作成し、家庭学習で取り組ませる。 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・音読では文節の印を意識して読むことができるようになってきた。 ・物語では場面と場面のつながりをイラストで示したが、全体の話の流れをつかむことは難しかった。 ・「図書館へ行こう」の校外学習は交流学級とともに実施。「立場を決めて討論をしよう」は交流学級の討論会に落ち着いて参加できた。 ・新出漢字の漢字パズルは家庭でも興味をもって取り組んでいる。漢字を書く練習は家庭と連携し84字に取り組んだ。
算数 小学5年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「直方体、立方体の体積」では底面、高さを表す箇所を視覚的に分かるようにマーカーで印を付けさせる。 ・「合同」では、角の大きさ、辺の長さ等比べるための手順表をもとに、自分で比べられるようにする。 ・教科書デジタルコンテンツを使用し、量や形の変化を捉えやすくする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・図形にマーカーで示すことで立式に必要な数値を選ぶことができた。 ・手順表があれば立式し、面積を求めることができた。
理科 小学5年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽やメダカの卵の変化等、観察とともに変化カードを作成し、自分でいつでも並び替えて学習できるようにする。 ・記録の際の表やグラフでは、タブレットPCを用いて、表の中に数字を書き入れたり、罫線上に点を書いたりしやすくする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・顕微鏡を用いた観察は交流学級で実施。 ・メダカの卵の変化では、細部の変化の違いに気付くことが難しかったが、色分けすることで気付くことができた。
社会 小学5年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	<ul style="list-style-type: none"> ・気候の特色等、表やグラフの読み取りの際は、文章と表やグラフに出てくる共通の語句に印を付けたら、教科書デジタルコンテンツを活用したりする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区の気候の特徴の一覧表を作成した。グラフや表から読み取るのではなく、一覧表から覚えたことをもとに発表したりプリントに記入したりした。
音楽 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの演奏では、鍵盤に色シールを貼り、音階を見やすくする。 ・歌唱では楽曲のCDを教室や家庭でも聞けるようにし、歌詞を覚えやすくする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの演奏では、楽譜の音階と鍵盤の対応が難しかった。楽譜にも鍵盤の色シールと同じ色でマーカーで印を付けることで演奏できるようにした。 ・合唱では歌詞をすべて覚えることができたが、メロディーに合わせるのが難しかった。

教科等	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気づき等
教育課程 学びの場				
体育 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・集団行動の指導では、モデルとなる児童と共に行動できるようにする。 ・器械運動では、担任が側に付く等、安全面に考慮すると共に、マットや跳び箱等、手や足を置く場所に印を付け視覚的に分かりやすくする。 ・運動会のダンス等、動きをDVDで記録し、教室や家庭でも練習できるようにする。	○	・集団行動ではモデルとなる児童の誘導により、周囲に合わせて行動することができた。 ・ダンスはリズムに合わせてすることは難しく、体の動かしはぎこちなかったが、動きの手順を覚えて踊ることができた。
図画工作 小学5年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・色を塗るときは、色見本で塗りたい色を確認しながら教師と一緒に絵の具を混ぜるようにする。 ・カッター等の道具を使用するときは教師や支援員とともに、安全に配慮しながら使用させる。	○	・手に絵の具の匂いのりが付くことを極端に嫌がり、授業中でもその都度手を洗いに行く。ビニールの使い捨て手袋等を用いることで、集中して塗ることができるようになってきた。
家庭 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・ガスコンロの安全な使い方や換気について指導を十分行うとともに、家庭でも取り扱いに十分留意してもらおうよう連携をとる。 ・裁縫道具を使う単元では、支援員を配置し、本人のコミュニケーションカードによる求めに応じて支援する。	△	・雑巾縫いでは、目印をもとに波縫いができた。針通し、玉止め等手先の細かい操作が必要なものは支援員とともに行った。
道徳 小学5年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・場面や状況、登場人物の会話、心情の変化等、文面から分かることを、イラストや図をもとに補足的に説明する。	△	・教材の場面等はイラスト等をもとに理解できたようであったが、自分の普段の生活等と照らし合わせて考えることは難しいようであった。
外国語 小学5年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・ALTには本児の実態を伝え、質問に答えることができなくても笑顔で接してもらうことで、次への意欲につなげる。	◎	・英単語カードには単語の意味や活動に応じたイラストが描かれたものが作られており、本人も分かりやすいようであった。2学期以降は交流学級において学習ができると考える。
総合的な学習の時間 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・宿泊体験学習では、交流学級の担任と確認し、副班長等の積極的に活動に関わる役割にする。 ・平和集会で発表する担当の言葉は、友達と一緒に安心してできるように配慮する。	○	・宿泊体験学習では日程表に合わせてスケジュールカードを作成し、落ち着いて過ごす場面が多かった。2日目の午後、事前にスケジュールの中で伝えていたが、雨天のため活動が変更になった際は不安になり活動に参加できなかった。 ・1日目の「午後の集い」では他の学校の参加者等が多いことに不安を感じ、始めはプレイルームに入れなかったが、集いの途中から参加できた。
特別活動 小学5年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・クラブ活動は、本人の希望によりパソコンクラブに参加。 ・委員会活動は、〇〇委員会で、週1回の当番活動を行う。 ・交流学級で、配り係になり、中休みに連絡帳を配る仕事に取り組ませる。	○	・配り係は毎日、確実に行うことができた。 ・2学期は保健係に取り組ませたい。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
R 年 月 日 : ~ :	保護者、特別支援学級担任 交流学級担任、教頭	○宿泊体験学習における支援内容について ・食事、服薬について共通理解
R 年 月 日 : ~ :		

事例 5

自閉症・情緒障害
特別支援学級

中学校 1 年生

※知的障害のない生徒の教育課程

秘

プロフィール票

作成日 (年 月 日)

本人に関する情報	氏名	おおむら はなこ 大村 花子		性別	女	生年月日	平成 年 月 日 生		才	
	園・学校名	〇〇中学校				学年等	1年			
	学級等	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級指導 障害種別				<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 障害種別 自閉症・情緒障害				
	気障の害状・況病	診断名	アスペルガー症候群							
		手帳の取得状況	手帳	等級	手帳	等級				
教育歴	幼稚園・保育所等	△△幼稚園								
	小学校	△△小学校卒業								
	中学校	〇〇中学校入学								
	高等学校									
家庭に関する情報	住所	〒		家族構成						
		続柄	氏名		備考					
	連絡先	☎	母	大村 〇〇						
		☎								
	備考									
関係機関に関する情報	実施日(期間)	機関名	担当者	主な支援・助言内容等						
	〇年〇月〇日～現在	〇〇病院	〇〇(医師)	かかりつけ医(2か月に一度受診)						
	〇年〇月〇日～〇年〇月〇日	〇〇病院	〇〇(作業療法士)	<ul style="list-style-type: none"> 作業療法(体の動きをコントロールする力を高めるための感覚統合運動) 小学校卒業まで6年間療育を受けた。引越のため終了。 						
	〇年〇月〇日	〇〇特別支援学校	〇〇(特支CO)	<ul style="list-style-type: none"> WISC-IV知能検査の実施、結果の説明 本人に応じた指導・支援の在り方について協議 						
	〇年〇月〇日	県教育センター	〇〇(指導主事)	<ul style="list-style-type: none"> 感情の読み取りが苦手な面への指導について 特別支援学級の教育課程について 						

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村 花子	主な記載者 (本人との関係)	〇〇 (担任)	年 月 日作成																				
願	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣の工業高校に進学したい。 数学や国語で平均点を取りたい。 																							
	<p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> 一方的に話すのではなく、友達の話を聞きながら、会話ができるようになってほしい。 得意な面を生かすことができる高等学校に進学してほしい。 																							
本人に関する情報 主な実態	<p><本人が好きで、できること、得意なこと、好ましい点></p> <ul style="list-style-type: none"> パターン処理や機械的な作業に黙々と取り組む。 歴史が好きで、年表をよく覚えている。 周囲に流されずに決められたことやルールはきちんと守ろうとする。 返事や挨拶は、いつも大きな声ですることができる。 係活動など、自分に与えられた役割は確実に取り組むことができる。 		<p><本人が嫌いなこと、苦手なこと、改善したい点></p> <ul style="list-style-type: none"> 多角的な視点で情報を捉えたり、情報を関連させながら想像を広げたりすることに課題があるために、国語では、文章を読むことはできるが、登場人物の心情を的確に読み取ることが難しい。 友達がルールを守っていないと厳しく注意してしまうことがある。 数学では、文章題の意味を捉えることが苦手である。 体の動きがぎこちなく、特に球技が苦手である。 場の雰囲気を読むことが苦手で、自分の好きな話を一方的にする傾向にある。 																					
	<p><家庭での生活上、困難な点></p> <ul style="list-style-type: none"> 好きなことに熱中していると、時間を忘れてしまうことがある。 思い違いをしていたとき等、腹を立てて母親にあたることもある。 																							
	<p><検査結果></p> <table border="1"> <tr> <td>検査名</td> <td>WISC-IV</td> <td>検査名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施機関</td> <td>〇〇特別支援学校</td> <td>実施機関</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施日</td> <td>平成〇年〇月〇日</td> <td>実施日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>結果</td> <td>FSIQ97 目で見て答えることの方が得意である。複数の情報を整理して考えることに苦手さがある。</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>資料等</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</td> <td>資料等</td> <td><input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</td> </tr> </table>				検査名	WISC-IV	検査名		実施機関	〇〇特別支援学校	実施機関		実施日	平成〇年〇月〇日	実施日		結果	FSIQ97 目で見て答えることの方が得意である。複数の情報を整理して考えることに苦手さがある。	結果		資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	資料等	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	検査名	WISC-IV	検査名																					
実施機関	〇〇特別支援学校	実施機関																						
実施日	平成〇年〇月〇日	実施日																						
結果	FSIQ97 目で見て答えることの方が得意である。複数の情報を整理して考えることに苦手さがある。	結果																						
資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	資料等	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し																					
<p><長期目標></p> <ul style="list-style-type: none"> キーワードとなる言葉に線を引いたり、イメージしやすい視覚的な絵等を見たりしながら文章を理解する。 友達への一方的なかわりを減らし、自分の話す量に気を付けて会話する。 																								
支援の方向性	<p><必要な配慮・支援> (◎は合理的配慮として本人・保護者と合意形成した内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題文等では、ポイントとなるキーワードに線を引かせたり、絵等の視覚情報等を示したりすることで意味を捉えやすくする。 友達との会話では、会話量をグラフで示すようにすることで、一方的な会話になっていないか気付かせる。 ◎友達とのトラブルがあったときは、友達から離れたり、クールダウンのスペースを使用したりして落ち着かせる。 具体的にどのような言動が望ましいのかロールプレイ等を通して学ぶことができるようにする。 																							
	<p>以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。</p> <p style="text-align: center;">令和 年 月 日 保護者氏名</p>																							
年度未評価	<p><目標の評価></p> <ul style="list-style-type: none"> キーワードに線を引くことは教師の支援が必要であるが、キーワードをたよりに意味を捉えられる場面が増えた。 興味のあること以外でも友達と会話を楽しめるようになり、一方的に自分の好きなことだけを話すことがほとんど見られなくなった。 																							
	<p><配慮・支援の評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 問題文等にポイントとなる部分に印を付ける等、教えられた手立てを自分から活用しようとする場面が見られるようになってきた。ポイントを捉えさせるためには教師の支援が必要。 友達に一方的に話すことが減り、友達と同じ程度の会話量になるように気を付けて話すようになった。 一方的なかわり方が改善したため、友達とのトラブルが減った。 																							
<p>以上の情報を引き継ぐことに同意しました。</p> <p style="text-align: center;">令和 年 月 日 保護者氏名</p>																								

秘 個別の指導計画（1学期）

学校名	〇〇中学校	学年	1年	氏名	大村 花子
-----	-------	----	----	----	-------

	できること、得意なこと、好ましい点	苦手なこと、改善したい点
主 学 な 習 実 上 態 ・ に 生 つ 活 い 上 て の	<ul style="list-style-type: none"> ・パターン処理や機械的な作業に黙々と取り組む。 ・歴史が好きで、年表をよく覚えている。 ・周囲に流されずに決められたことやルールはきちんと守ろうとする。 ・返事や挨拶は、いつも大きな声ですることができる。 ・係活動など、自分に与えられた役割は確実に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多角的な視点で情報を捉えたり、情報を関連させながら想像を広げたりすることに課題があるために、国語では、文章を読むことはできるが、登場人物の心情を的確に読み取ることが難しい。 ・友達がルールを守っていないと厳しく注意してしまうことがある。 ・数学では、文章題の意味を捉えることが苦手である。 ・体の動きがぎこちなく、特に球技が苦手である。 ・場の雰囲気を読むことが苦手で、自分の好きな話を一方的にする傾向にある。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文等では、ポイントとなるキーワードに線を引かせたりイメージしやすい絵等の視覚情報等を示したりすることで意味を捉えやすくする。 ・話し合い活動では、友達が話す時間と自分が話す時間が同じ程度になるようにめあてをもたせる。
---------------	--

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	<p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達とペースを合わせたり他者の考え方や工夫を取り入れたりして活動する方法を知り、それを使って友達とやり取りをする。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の言動に対して、「ありがとう」「いいよ」等の言葉を伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との協力が必要なゲームや活動を行いながら他者の気持ちや考え等を理解する。 ・ロールプレイで、どのようなタイミングで何を言えばよいのかを考え、練習する。 ・相手の様子や場の状況を把握する手掛かりを具体的に伝える。 ・「〇〇新聞」を作成し、その中に友達や教師の好きなことについて知らせるコーナーを作る。 ・取材の際に「今ちょっといい？」等の教師と決めたフレーズを使う。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞作りの取材では「今ちょっといい？」等のフレーズを使うことができた。連絡係の仕事でも「今、少しお時間いいですか？」と教師に言うこともできるようになった。しかしながら、それ以外の場面に広げることができていないので、後期以降は、友達とのやり取りの場面でも指導を行っていききたい。 ・「どうぞ」「いいね」「ありがとう」は、本人だけでなく学級全体で取り組んだ。ポジティブな言葉を掛けられる経験も積ませることで、タイミングを覚えて言えるようになってきた。これまで周囲に対して注意をすることが多かったが、これらの言葉を上手く使えるようになったことで、周囲からの関わりも増えた。 ・1分間スピーチをすることで、自分が話をするときの量をつかめるようになり、友達に話をするときや授業で発表するような場面で一方的に自分の話したいことをいつまでも話すことが減ってきた。
国語 小学6年 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校第6学年に同じ。（1学年下に替える。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読む際に、「なぜなら」「さらに」「また」等の接続詞や「だろう」等の文末表現について繰り返し強調することで、文章を読み取ることができるようにする。 ・登場人物の気持ちについて、ポイントとなる行動や発言、情景描写に一つ一つ線を引きながら考えさせていくようにする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の徒競走で友達に負けてしまったこと等、自分にとってマイナスなことは書きたがらなかった。 ・接続詞や文末表現については、自分で該当する部分を枠で囲むことで、筆者の意見とその根拠について読み取ることができた。 ・物語を読む際には、登場人物の心情について具体的に表現されていると読み取ることができた。行動で描写されている部分は、これまでの経験を想起して考えさせることで、徐々に読み取れるようになってきた。
社会 中学1年 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国や気候等についてはイメージしやすいインターネット等の画像等を示すようにする。 ・資料の読み取りについては、ポイントとなる箇所にマーカーや〇印を付けて、理解しやすいようにする。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等を使用することで、ゲーム感覚で国の場所を覚えることができた。サハラ砂漠と南極大陸等も探していく中で、特徴的な気候についても興味をもって取り組むことができた。 ・評価テストは7割程度できた。
数学 小学6年 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校第6学年に同じ。（1学年下に替える。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の内容がイメージできないときは、図を用いながら考えさせるようにする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題を解く際、自分で数字やキーワードに印を付けながら考えられるようになってきた。 ・円の面積や、体積については同様の問題を繰り返し取り組むことで、公式に当てはめながら求めることができた。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気づき等
理科 中学1年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・実験の方法を説明する場面では、動画を見せたり写真を用いて説明したりすることで、本人が具体的にイメージしながら学べるようにする。 ・実験でバーナーや薬品を使うときには事前に使うときの約束をし、約束事項を黒板に貼ったり、実際に使う直前に再度確認をしたりすることで、安全面への意識をもちながら取り組めるようにする。	◎	・バーナーや薬品について、危険な面だけでなく、どのように使うと安全なのかを具体的に伝えることで、落ち着いて実験に取り組むことができた。 ・評価テストは、7割程度できた。
音楽 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・交流学級で行う。 ・強弱記号については、教師が強弱をつけて演奏し、比較をさせることで、違いが分かるようにする。具体的に強弱記号を数値で示したり、円の大きさで視覚的に示したりすることで、意識できるようにする。	○	・歌唱では、正しい音程で歌うことが難しい場面もあったが、強弱記号の意味を覚え、それを意識しながら歌唱できた。 ・器楽では、リコーダーに取り組んだ。低音部のドとしては、穴を指で塞ぐことが難しかったが、「エーテルフェイス」等、低音部のドやしが無い曲では、間違えることなくゆっくりと演奏することができた。
美術 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・クロッキーでは、バランスが捉えやすいように、タブレットPCの写真機能を使って構図をとり、補助線を頼りにしながら描くようにする。	○	・風景等の絵を描く際には、ある一部分を詳細に書こうとして時間がかかる場面が見られたが、描く順番を本人と話し合い、決定してから取り組ませると効果的だった。
保健体育 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・交流学級で行い、担任が同行する。 ・体づくり運動では、模倣をしたり、体を大きく動かしたりする活動を取り入れることで、ボディイメージを高められるようにする。 ・水泳では、上肢と下肢の動きに分けて、身体の動かし方をつかませる。	○	・体づくり運動では、示範を見るだけでなく実際にどのように動かせばよいか、ポイントを簡潔に伝えることで、理解することができた。 ・水泳では、クロールで2.5m泳ぐことができた。平泳ぎは、手と足、それぞれの動きは正しくできるが、手と足を動かすタイミングが合わなかった。
技術・家庭 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・交流学級で行い、支援員を配置する。 ・位置や場所、間隔等を写真カードや目印となる紐等を使用しながら理解できるようにする。	◎	・生物育成では、成長の過程を楽しみにして休み時間にも様子を見に行ったり、自分で病虫害について調べて教師に報告する姿が見られたりした。 ・環境に配慮した消費生活の工夫では、ごみの分別や節電だけでなく、家庭で買い物に出かける際にエコバッグを自分で用意する等、日常の中で実践する様子が見られた。
外国語 中学1年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・「単語を表す絵や写真を示す」「リズムに合わせて発音を覚える」「発音をカタカナ表記する」等、多感覚を活用して単語等を覚えられるようにする。	○	・ALTとやり取りをすることで、伝える楽しさを味わっていた。 ・ローマ字読みを用いるために、単語の読み方で混乱する場面も見られた。引き続きふりがなをふりながら指導を行う必要がある。 ・評価テストでは6割程度できた。
道徳 中学1年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・教材で使用する読み物は、文章を捉え違えることのないよう、イラストを用いたり、説明を加えたりする。	○	・自分なりに教材の内容について考えて意見を出すことができた。話し合い活動では、付箋を用いてそれぞれの意見を可視化し、模造紙の上で操作できるようにすることで、自分の意見、友達の意見について整理しやすいようだった。
総合的な学習の時間 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・交流学級で行い、担任が同行する。 ・活動の見通しがもてるように、大まかな流れに単元の最初に伝えるようにする。 ・活動の中で、本人が発言したり選択・決定できたりするような場面を設定する。	○	・交流学級で取り組むことで、より多くの友達の意見を聞くことができ、それをもとに考えることもできた。他者の意見については、聞き逃しがあるため注目させる等教師の働きかけが必要だった。
特別活動 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・教科担任に連絡事項を聞いて背面黒板に書く係を友達と協力して取り組ませる。 ・聞きもらしがないように、メモを取った後に各教科担任に確認をする。	○	・行事等で時間割が変更になると、混乱する様子が見られた。 ・友達からお礼を言われたことをきっかけに、係の仕事に取り組む意欲につながっていた。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議(・)・合意内容(○)
R年 月 日 : ~ :	保護者、校長、特CO、担任	・個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標や支援内容等について ○前期の目標と支援内容について合意
R年 月 日 : ~ :	保護者、校長、特CO、担任	・個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標や支援内容等について ○前期の取組内容と評価について、及び後期の目標と支援内容について合意
R年 月 日 : ~ :		

事例 6

肢体不自由
特別支援学級

小学校6年生

※知的障害のない児童の教育課程

秘

プロフィール票

作成日 (年 月 日)

本人に関する情報	氏名	くしま せんた 玖島 千太	性別	男	生年月日	平成 年 月 日 生	才
	園・学校名	〇〇小学校			学年等	6年	
	学級等	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級指導 障害種別			<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 障害種別 肢体不自由		
	気障の害状・況病	診断名	脳性まひ				
	手帳の取得状況	身体障害者手帳	等級	2級		手帳	等級
教育歴	幼稚園・保育所等	〇〇保育園					
	小学校	〇〇小学校入学					
	中学校						
	高等学校						
家庭に関する情報	住所	〒		家族構成			
		続柄	氏名	備考			
		祖父	玖島 〇〇				
	連絡先	祖母	玖島 〇〇				
		父	玖島 〇〇				
	備考	弟	玖島 〇〇	〇〇保育園 5歳児クラス			
関係機関に関する情報	実施日(期間)	機関名	担当者	主な支援・助言内容等			
	〇年〇月〇日～現在	〇〇医療センター	〇〇(医師)	・小児科主治医			
	〇年〇月〇日～現在	〇〇医療センター	〇〇(医師)	・整形外科主治医(半年に一回受診)			
	〇年〇月〇日～現在	〇〇医療センター	〇〇(理学療法士)	・2週間に一度(2時間:個別リハビリ) ・理学療法(運動機能を高めるための活動)			
	〇年〇月〇日～現在	〇〇医療センター	〇〇(作業療法士)	・毎週水曜日2時間(個別療育) ・作業療法(手指の巧緻性を高めるための活動)			
	〇年〇月〇日	〇〇医療センター	〇〇(理学療法士)	・学校生活における留意事項の確認			
	〇年〇月〇日	△△特別支援学校	〇〇(特支CO)	・肢体不自由児の教科指導における配慮について ・肢体不自由児の自立活動の指導について			

秘

個別の教育支援計画

氏名	玖島 千太		主な記載者 (本人との関係)	〇〇 (担任)		年 月 日作成
願	<本人> ・自分一人で外出したり友達と遊びに行ったりできるようになりたい。					
	<保護者> ・身の回りのことを、一つでも多くできるようになってほしい。 ・学習面では、同級生と同じことを学んで身に付けてほしい。					
本人に関する情報 主な実態	<本人が好きで、できること、得意なこと、好ましい点> ・友達や教師と話をすることが好きで、積極的に人とかわかることができる。 ・国語の詩や物語文等を覚えたり歌の歌詞を覚えたりすることが得意である。 ・校内であれば、車いすで移動することができる。 ・授業の準備や片付けは自分で行うことができる。 ・困ったときには、自分から友達に依頼することができる。 ・忘れ物をするのではなく、宿題等も確実に提出する。 ・外国語の学習が好きで、英語に興味をもっている。 ・自動車が大好きで、メーカーや車種等に詳しい。			<本人が嫌いなこと、苦手なこと、改善したい点> ・手すりにつかまって立つことはできるが、衣服をきれいにズボンに入れることは難しい。 ・20cm以上、足を上げることは難しい。 ・コンパスや定規で線を引いたり、ハサミで形を切り取ったりすることが苦手である。 ・漢字を正確に覚えることができず、文字を整えて書くことが苦手である。板書の視写に時間がかかる。 ・実験や工作等の細かい操作や作業は難しい。 ・図形の問題やグラフの読み取りが苦手である。 ・自分でできることも、人をお願いをすることがある。		
	<家庭での生活上、困難な点> ・身体が大きくなって、車への乗り降りや入浴の介助が大変になってきた。					
	<検査結果>					
	検査名	WISC-III		検査名		
	実施機関	〇〇特別支援学校		実施機関		
実施日	平成〇年〇月〇日		実施日			
結果	全検査 Q84、言語性 Q97、動作性 Q71 見て理解するより聞いて理解する方が得意。		結果			
資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し		資料等	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し		
支援の方向性	<長期目標> ・車いす⇄学習いすの移動を一人でできるようになる。 ・自分の得意な学び方を知り、環境を整えたり必要な支援を依頼したりすることができる。					
	<必要な配慮・支援> (◎は合理的配慮として本人・保護者と合意形成した内容) ◎授業は基本的に学習いすで行い、車いすから移乗する機会を確保する。 ・車いすと学習いすの間の移動は、最小限の支援を受けながら行う。 ◎下校時には玄関まで歩行器(PCW)を使って歩く。 ・学習については、どのような方法が理解しやすいかを本人に尋ねながら進める。 ・視覚的な情報は、言葉で補足説明したり、見るポイントを具体的に示したりする。					
以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。						
令和 年 月 日 保護者氏名						
年度末評価	<目標の評価> ・車いすへの移乗は1分程度、学習いすへの移乗は2分以内できるようになった。 ・下敷きで見る部分を焦点化したり、「形の特徴を言葉で教えてください」と依頼したりできるようになった。					
	<配慮・支援の評価> ・自立活動の時間だけでなく、学習いすへの移乗や下校時の歩行に継続して取り組み、スムーズな移乗ができるようになり、歩行も安定してきた。今後は、下校時以外の校内の移動も歩行器(PCW)による歩行にしていく。 ・学習の仕方をいくつか実践し、どの方法がよいかを振り返り、評価する時間を確保することで、本人の気づきを促すことができた。 ・視覚情報が多くなると混乱することが多かった。情報の焦点化や順を追って説明することが有効であった。					
以上の情報を引き継ぐことに同意しました。						
令和 年 月 日 保護者氏名						



個別の指導計画（前期）

学校名	〇〇小学校	学年	6年	氏名	玖島 千太
-----	-------	----	----	----	-------

主 学 な 習 実 上 態 ・ に 生 活 し て の	できること、得意なこと、好ましい点	苦手なこと、改善したい点
		<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師と話をすることが好きで、積極的に人とかかわることができる。 ・国語の詩や物語文等を覚えたり歌の歌詞を覚えたりすることが得意である。 ・校内であれば、車いすで移動することができる。 ・授業の準備や片付けは自分で行うことができる。 ・困ったときには、自分から友達に依頼することができる。 ・忘れ物をするのではなく、宿題等も確実に提出する。 ・外国語の学習が好きで、英語に興味をもっている。 ・自動車が大好きで、メーカーや車種等に詳しい。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・いすの座面に滑り止めマットを敷き、安定した姿勢が保てるようにする。姿勢が崩れたら、学習に影響がない範囲で声掛けをし、自分で修正させる。 ・書字量を減らすため、穴埋め形式等にしたワークシートを使用する。 ・視覚的な情報量が多い場合は、下敷き等で余計な部分を隠して見る部分に注目させたり、言葉で具体的に指示を出したりする。 ・操作を伴う学習は、活動時間を十分に確保する。難しい場合は、自分から依頼させる。
---------------	--

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気づき等
自立活動	<p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すりにつかまりながら、台に上り下りすることができる。（台の高さ：40cm） ・見本を見ながら5～6個のパーツを組み合わせて絵や図形を構成することができる。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すりにつかまりながら、台に上り下りすることができる。（台の高さ：30cm） ・見本を見ながら3～4個のパーツを組み合わせて絵や図形を構成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体幹、腰、肩、膝、足首の不適切な筋緊張をゆるめる。 ・長座の姿勢で、手で身体を支えてお尻を持ち上げる。 ・つかまり立ちで高い場所や床にある物を取る。 ・足をつく位置に気を付けながら階段の上り下りをする。 ・歩行器で足を高く上げることを意識しながら歩く。 ・好きな車の絵を3～4分割したものを構成する。 ・ブロックや積み木で、手本と同じ物を作る。 ・絵や文字の間違い探しをする。気付かないときには、見る部分を狭くする。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・軸足をつく場所を自分で調整できるようになり、30cmの高さでも足を上げて上ることができるようになった。 ・声掛けだけで歩き方は改善せず、足を引くように歩いている。 ・車の絵は4分割でも間違えずに構成できた。模様になると手本を何度も見ながら試行錯誤してできないこともあった。位置関係を言葉で説明する支援が必要である。
国語 小学6年 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に同じ。 ・一部第4学年に同じ。（2学年下に替える。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字は、偏やつくりのパーツを組み合わせて漢字を構成させる。 ・漢字を指でなぞった後に、声に出しながら書かせる。 ・文脈を図式化したり、状況をイラストで示したりしながら、内容を理解させる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての漢字を実施できなかったが、漢字パズルで取り組んだものは、早く覚えることができ、定着する傾向にある。 ・本文中に線を引き、その部分をもとに、事実、説明、考え等を表に整理することで、要旨を理解することができた。あまり関係のない部分に線を引くこともある。
算数 小学6年 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に同じ。 ・一部第4学年に同じ。（2学年下に替える。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「図形」については、位置関係を言語化しながら特徴をつかませたり、着目する辺や角に色を付けて注目させる ・具体物を操作させたり、ICT機器を活用したりしながら、形の異同に気付かせる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形や台形、ひし形を一目で見分けることは難しかったが、形の特徴を言語化することで探すことができた。
社会 小学6年 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の見方については、情報を言語化したり、見方を手順化して示す。 ・グラフや地図は、見せる箇所を限定したり、基準から順を追って見るように指示したりする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・基準を決めてグラフや表を読み取らせることは効果的だった。基準を自分で決めることはまだ難しいので、ヒントを与えるような声掛けが必要である。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気づき等
理科 小学6年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	・教科等における配慮事項等に同じ。	○	・ワークシートは穴埋め形式にしたことで、思考する時間の確保に有効であった。
音楽 小学6年 交流学級	・当該学年に同じ。 ・一部、第1・2学年に同じ。 (4・5学年下に替える。)	・演奏では、バチに滑り止めを巻く等本人に聞きながら操作しやすいように工夫する。 ・テンポの速い曲は難しいので、音を出す部分を決めてリズムに合わせて演奏させる。	○	・打楽器では、木琴を自ら選び、担当する部分をリズムに合わせて演奏できた。本人も達成感が得られ、笑顔を見せていた。
図画工作 小学6年 交流学級	・当該学年に同じ。	・教科等における配慮事項等に同じ。	○	・細かい作業は難しいため、担任がついて援助しながら行った。刃物については、本人も気を付けながら慎重に操作する様子が見られた。
体育 小学6年 特別支援学級	・当該学年に同じ。 ・内容に関する一部の事項を取り扱わない。	・陸上は歩行器で行い、距離と目標タイムを決めて取り組ませる。 ・球技は車椅子で行い、台に置かれたボールを打つ、車椅子でボールを捕る等、本人に合わせたルールで実施する。	○	・運動会では、20mの距離を目標よりも短い時間で走ることができ、本人も満足気な表情だった。 ・競技における作戦やよりよい方法を考える際は、教師の提案を聞くことが多く、受け身的であった。
家庭 小学6年 交流学級	・当該学年に同じ。	・エプロンはボタンのないかぶり式、三角巾は帽子型のものにして、自分で準備させる。	○	・実習では、エプロン、三角巾、マスク、手洗い等、事前の準備を一人でできた。時間の確保は必要である。
道徳 小学6年 交流学級	・当該学年に同じ。	・集団の中での自分の役割については、自分にできることがあることに気付かせる。	◎	・友達の意見を聞きながら「なるほど」「いろいろな考え方があるんですね」等の発言が聞かれ、他者の考えを取り入れたり、尊重したりすることができた。
外国語 小学6年 交流学級	・当該学年に同じ。	・音と同時に絵カードやジェスチャーを併せて提示する。 ・教師は基本的に見守り、本人が何らかの支援を伝えたときに援助する。	◎	・英語の歌が大好きで、一曲全部覚えて歌えるようになった。 ・楽しい雰囲気の中で、特別支援学級担任は見守る程度で、ほとんど一人で主体的に学習に取り組むことができた。
総合的な学習の時間 小学6年 交流学級	・当該学年に同じ。	・調べ学習でタブレットPCを使用するときは、パソコンのキーボードで入力させ、押し間違いを減らし、操作時間を短縮させる。	○	・機器の使い方理解し、一人でインターネット等を利用して調べ学習をすることができた。
特別活動 小学6年 交流学級	・当該学年に同じ。	・クラブ活動は、本人に選択させ、必要な支援について、担当教員に伝える。	○	・〇〇クラブを自分で選び、楽しく活動することができた。日頃、かかわることの少ない友達にも、自分から話し掛けていた。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
R 年 月 日 : ~ :	保護者、校長、特支CO、担任	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の目標や支援内容について確認 ○前期の目標及び支援内容について合意
R 年 月 日 : ~ :	保護者、担任	○個別の指導計画の評価の伝達 ・後期の支援の方向性について協議

事例 7

弱 視

特別支援学級

小学校5年生

※知的障害のない児童の教育課程

秘

プロフィール票

作成日 (年 月 日)

本人に関する情報	氏名	くしま せんか 玖島 千花	性別	女	生年月日	平成 年 月 日 生	才
	園・学校名	〇〇小学校			学年等	5年	
	学級等	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級指導 障害種別			<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 障害種別 弱視		
	気障の害状・状況・病	診断名	未熟児網膜症				
	手帳の取得状況	身体障害者	手帳	等級	5級	手帳	等級
教育歴	幼稚園・保育所等	〇〇保育園					
	小学校	〇〇小学校入学					
	中学校						
	高等学校						
家庭に関する情報	住所	〒		家族構成			
			続柄	氏名	備考		
			祖父	玖島 〇〇			
	連絡先	☎	母	玖島 〇〇			
		☎	兄	玖島 〇〇	〇〇高等学校1年		
	備考		姉	玖島 〇〇	〇〇中学校2年		
			妹	玖島 〇〇	〇〇小学校3年		
関係機関に関する情報	実施日(期間)	機関名	担当者	主な支援・助言内容等			
	〇年〇月〇日～ 現在	〇〇眼科	〇〇 (医師)	• かかりつけ医 (3か月に一度受診)			
	〇年〇月〇日	〇〇市障害福祉課	〇〇	• 身体障害者手帳の更新手続き • 視覚補助具購入に関する相談			
	〇年〇月〇日～ 〇年〇月〇日	盲学校 視覚支援センター 〇〇	〇〇 (教諭)	• 月2回支援相談 • 日常生活の自立を促すための支援方法について			
	〇年〇月〇日～ 〇年〇月〇日	〇〇市教育委員会	〇〇 (指導主事)	• 就学に関する相談			
	〇年〇月〇日～ 現在	盲学校	〇〇 (主幹教諭)	• 視力検査の実施、教育相談の実施 (保護者向け) • 学校生活上の留意点、自立活動の指導について			

秘

個別の教育支援計画

氏名	玖島 千花		主な記載者 (本人との関係)	〇〇 (担任)	年 月 日作成
願い	<本人> ・見えにくい状況を軽減するための様々な補助具の使い方を教えてほしい。 ・友達と一緒に学習する機会を増やしたい。				
	<保護者> ・補助具の使い方に慣れ、補助具を使って学習し、学習内容の理解を深めてほしい。 ・自分から援助を依頼できるようになってほしい。				
本人に関する情報 主な実態	<本人が好きで、できること、得意なこと、好ましい点> ・交流学級にいる仲の良い友達2~3人と一緒に給食を食べたり、休み時間を過ごしたりすることが多い。 ・時間はかかるが一つ一つの作業を丁寧に取り組もうとする気持ちが強い。 ・学習中は保有視力によって獲得できる視覚情報に加え、教師からの説明によって内容を理解する力がある。		<本人が嫌いなこと、苦手なこと、改善したい点> ・見えにくいことで自信がもてずに依存的な面があり、特に初めてのことにに対して消極的である。 ・板書の文字が見えにくかったり友達とぶつかったりすることがあるが、自分から「何と書いてありますか」「ごめんなさい」が言えない。 ・注視する時間が長くなると大変疲れやすい。 ・特に漢字を書くことが苦手である。 ・体育の集団ゲームが苦手である。		
	<家庭での生活上、困難な点> ・出生時に未熟児網膜症の診断を〇〇大学病院眼科で受ける。その後、〇〇眼科を3か月に1回定期受診中。同時に盲学校教育相談を紹介される。4歳からは地元の保育園にも通園しながら、月2回、盲学校の「視覚支援センター〇〇」で支援相談を受ける。 ・体調や環境により見え方がかなり異なる。体調管理や環境調整に心掛けている。				
	<検査結果>				
	検査名	視力検査		検査名	視力検査
実施機関	〇〇眼科		実施機関	盲学校	
実施日	令和〇年〇月〇日		実施日	平成〇年〇月〇日	
結果	近距離視力：右0.04 左 0.07 両0.06 遠距離視力：右0.08 左 0.08 両 0.1 矯正視力：右0.07 左0.15 ※遠近ともレンズが必要。		結果	最大視認力 Max：0.3 (左5cm)	
資料等	■ 有り □ 無し		資料等	■ 有り □ 無し	
支援の方向性	<長期目標> ・単眼鏡やルーペの使い方の習熟・活用を図り、視経験を広げるなどすることで、学習内容の理解を深める。				
	<必要な配慮・支援> (◎は合理的配慮として本人・保護者と合意形成した内容) ・楽しく見る経験を積み重ねることで、見る意欲を育むようにする。 ・単眼鏡やルーペを使って板書を写したりプリント等を見たりする学習に取り組ませ、その習熟を図る。 ◎交流学級と連携し、弱視レンズを活用しやすくするための環境整備や配慮等を行う。 ◎全教科にわたって、拡大教科書を使用する。				
以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。					
令和 年 月 日 保護者氏名					
年度末評価	<目標の評価> ・長期目標については、本児の達成状況から見て妥当であった。今年度身に付けた力を基盤にした、更なるスキルの向上や学習場面での活用が望まれる。 ・近距離の見方、ルーペを使用した見方に重点を置く。				
	<配慮・支援の評価> ・最適文字サイズについては、18p→20pに拡大したほうが読速度の数値が良いようだ。プリント等の配付資料については、文字サイズを拡大する方向で検討する。 ・拡大教科書については、次年度も引き続き使用する。				
以上の情報を引き継ぐことに同意しました。					
令和 年 月 日 保護者氏名					



個別の指導計画（前期）

学校名	〇〇小学校	学年	5年	氏名	玖島 千花
-----	-------	----	----	----	-------

主学 な習 実上 態・ に生 つ活 い上 での	できること、得意なこと、好ましい点	苦手なこと、改善したい点
	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級にいる仲の良い友達2～3人と一緒に給食を食べたり、休み時間を過ごしたりすることが多い。 ・時間はかかるが一つ一つの作業を丁寧に組み組もうとする気持ちが強い。 ・学習中は保有視力によって獲得できる視覚情報に加え、教師からの説明によって内容を理解する力がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見えにくいことで自信がもてずに依存的な面があり、特に初めてのことに對して消極的である。 ・板書の文字が見えにくかったり友達とぶつかったりすることがあるが、自分から「何と書いてありますか」「ごめんなさい」が言えない。 ・注視する時間が長くなると大変疲れやすい。 ・特に漢字を書くことが苦手である。 ・体育の集団ゲームが苦手である。

〈教科・領域等について〉

各教科等における配慮事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・補助具の使用で、より学習効果が高くなるようにするために、特に教室環境においては、照度（まぶしさや明るさ）や座席位置、板書等の配慮や工夫を行う。 ・補助具の使用や各教科等の指導方法については、盲学校の支援を適宜活用しながら、計画的に進めていく。 ・自分の見えにくさを理解し、場面や状況に応じて他者に援助を依頼し、自分の環境を変えていく力を付けさせる。
---------------	---

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	<p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単眼鏡やルーペの使い方の習熟・活用を図り、視経験を広げる。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単眼鏡やルーペを使って、板書や教科書等の視覚情報の中で見たいものにレンズをすばやく向けたり、ピントを合わせたりして見ることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や保護者の意向を確認しながら視覚補助具を活用することを他の児童や教職員に周知し理解を求める。 ・文字の大きさや色、レイアウト等、整理された板書やプリントを心掛ける。 ・見えにくい状況かどうかを本人にこまめに尋ねるなど、生活や学習しやすい環境づくりに配慮する。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・単眼鏡は、担任によるピント合わせや調整が必要であるが、対象を探索することや的確に認知する力が高まっている。 ・左右の図を見比べる等、視線を移し変える力が向上した。
国語 小学5年 特別支援学級又は 交流学級	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級で学習する場合は、特別支援学級担任がT・Tとして支援。 ・漢字を読む学習では、一画一画が見えなくても、部首や字形の特徴に着目し、文脈から推測しながら読み取ることも大切にしながら指導を行う。 ・イメージや概念形成を補うために、できるだけ動作化・言い換え等を通して、言葉のもつ意味をより明確なものにしていく。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・音読について、読む速さは、4月は150文字（20pゴシック体）/1分だったが、7月は220文字（20pゴシック体）/1分となった。
算数 小学5年 特別支援学級又は 交流学級	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の学習では、まずは「部分」→「全体」を把握させたり、座標軸（4つの象限）をイメージさせながら、位置関係を捉えさせたりする。 ・作図については、基準となる位置を設定し、方向を捉えさせる。 ・グラフや定規等の細かい目盛りについては、注視し過ぎて疲れることがないように、適宜休憩を入れながら操作をさせる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・定規は、弱視用白黒反転定規を使用。1cm単位は判読できた。
理科 小学5年 特別支援学級又は 交流学級	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級で学習する場合は、特別支援学級担任がT・Tとして支援。 ・実験・観察はできるだけ余裕のある計画で取り組ませ、実験中は決して急がせないようにする。他の児童と共に理科室の整理整頓や器具等の転倒防止、薬品等の安全な取扱いについての徹底を図る。 ・視覚以外の感覚を活用し、変化の際の音や手触りからものの状態や変化の様子をつかませる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の発芽や成長に関する学習では、ルーペや凸点シールを貼った定規を活用して成長の様子を観察し、記録することができた。 ・ものの溶け方の実験では、ピーカーの底をガラス棒で突かせることで判別できた。 ・葉脈の観察では、手触りで葉の表裏の違いに気付くことができた。
社会 小学5年 特別支援学級又は 交流学級	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級で学習する場合は、特別支援学級担任がT・Tとして支援。 ・地図の指導においては、地図上の点や線分、面で表現される地域の範囲等を触って理解できるような教材の工夫・配慮をする。また、算数の図形の学習と同様に、座標軸（4つの象限）をイメージさせながら、位置関係を捉えさせる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・板書のどこを見たらよいか分からないことがある。 ・板書の視写に時間がかかり、教師の説明を聞き逃すことがある。板書と同じワークシート（A3）を事前に配付していくことも検討する。
音楽 小学5年 交流学級	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を読んだり、暗譜したりする学習は最小限度にとどめ、歌唱や自分の体を使って表現することによって学習への意欲を高める。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱（合唱）については、友達が肩を叩いたり、つないだ手を振りながらリズムを取ったりする方法で、調子を合わせることができた。 ・教師が言う音譜に合わせてリコーダーの操作ができつつある。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気づき等
図画工作 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・作品鑑賞については、可能な限り作品に手を触れて鑑賞できるような機会を設定する。 ・粘土造形が好きである強みを生かし、本児のアイデアや発想を共有したり、取り入れたりしながら、自己肯定感を高めていく。	○	・鑑賞では、自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行き等の造形的な特徴を捉えることができた。
体育 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・動きや姿勢の指導を行う際は、抽象的な指示は避け、「右ひじを曲げる」のように具体的に簡易な言葉を使用するとともに、必要に応じて直接体に触れる等の動作補助を行う。 ・頭部への衝撃を避けるように場の設定や活動のさせ方には細心の注意を払う。	○	・ベースボール型の運動ゲームでは、ルールの工夫や音が鳴るボールの使用をすることで、積極的に参加する様子が見られた。
家庭 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・調理実習では、できるだけ余裕のある計画で取り組ませる。また、他の児童と共に対物の使用や熱源の安全な扱い方についての徹底を図る。 ・コンロの火加減については、離れた位置から単眼鏡で確認させる。	○	・コンロの火加減（つまみ式、スライド式）については、手首の返し方や手のひらのサイズでおおよその火加減を調節できるようになった。 ・食材の火の通り方については、タブレットPCやキッチンタイマー等を使用し、時間の経過に合わせて調理することができることを実感できていた。
道徳 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・教科書の内容を分かりやすくするために、動作化・言い換え等の工夫をし、イメージを確かなものにする。また、ワークシートについては、他の教科と同様、拡大コピーを準備する。	○	・拡大したワークシートは、読速度や書字のスピードを考えると、使いづらい点が多かった。課題を焦点化し、ワークシートの改善について検討が必要。
外国語 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・特別支援学級担任がT・Tとして支援。 ・単語カードの文字フォントは18pゴシック体を使用する。 ・英語によるコミュニケーション活動やエクササイズに積極的に参加できるように、まずは担任とペアを組んだり、グループに担任が入ったりするような工夫を行う。	○	・担任が距離をおいても、友達の手助けを受けてエクササイズをしたり、コミュニケーションをとったりすることができた。 ・アルファベットの形の認識については、空書きや粘土で作ったものを触ったりして、形のイメージをつかむことができた。
総合的な学習の時間 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・友達と一緒に情動を伴う体験を積極的に取り組み、周りの人たちが喜んだり悲しんだりする雰囲気味わわせながら、周囲の状況を教えていく。	◎	・周囲の子供たちと一緒に体験することが自信につながり、自分の気持ちを伝える場面が増えてきた。
特別活動 小学5年 交流学級	・当該学年に同じ。	・児童会活動では、児童会の一員として、交流学級の友達や上級生（6年生）と協力して取り組めるような役割に取り組ませる。 ・クラブ活動では、本人の興味関心に沿った活動に取り組ませるながら、見ることへの意欲を高める。	○	・児童会では保健委員会において、身なりや衛生面（歯磨き）についての標語を考えた。実際の体験をもとに、イメージをつかませることで、言葉をつなげていくことができた。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
R 年 月 日 : ~ :	校長・教頭・学級担任・交流学級担任 学年主任・養護教諭・特支CO	・今年度の本人に対する支援について ○個別的教育支援計画に基づいて今年度の年間目標（短期目標）及び具体的な指導・支援の方向性について合意
R 年 月 日 : ~ :	校長・教頭・学級担任・交流学級担任 学年主任・養護教諭・特支CO	・他の児童への理解を促す指導について ○本人・保護者の意向を受け、交流学級の中で本人についての説明を行う。特に視覚補助具を活用することの必要性について他の児童の理解を促す
R 年 月 日 : ~ :	校長・教頭・学級担任・交流学級担任 学年主任・養護教諭・特支CO	・前期の支援についての評価について ○板書を写すポイントや時間の確保についての共通理解を図る
R 年 月 日 : ~ :		

難 聴
特別支援学級

小学校3年生

※知的障害のない児童の教育課程



プロフィール票

作成日 (年 月 日)

本人に関する情報	氏名	おおむら たろう 大村 太郎		性別	男	生年月日	平成 年 月 日 生		才	
	園・学校名	〇〇小学校				学年等	3年			
	学級等	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級指導 障害種別				<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 障害種別 難聴				
	気障の害状・状況	診断名	感音性難聴							
	手帳の取得状況	身体障害者手帳	等級	6級		手帳	等級			
教育歴	幼稚園・保育所等	〇〇認定こども園								
	小学校	〇〇小学校入学								
	中学校									
	高等学校									
家庭に関する情報	住所	〒		家族構成						
		続柄	氏名		備考					
		父	大村 〇〇							
	連絡先	母	大村 〇〇							
		妹	大村 〇〇		〇〇認定こども園 年長					
備考										
関係機関に関する情報	実施日(期間)	機関名	担当者	主な支援・助言内容等						
	〇年〇月〇日～現在	〇〇耳鼻科	〇〇(医師)	<ul style="list-style-type: none"> • かかりつけ医 • 聴力検査の実施 • 補聴器の調整(3か月に1回受診し調整) 右 (oticonC 100) 〇年〇月から使用 左 (oticonC 100) 〇年〇月から使用 						
	〇年〇月〇日～現在	〇〇耳鼻科	〇〇(言語聴覚士)	<ul style="list-style-type: none"> • 毎月第3木曜日2時間(個別活動) • 言語療法(語い力を高める活動) 						
	〇年〇月〇日～現在	ろう学校	〇〇(教育相談担当)	<ul style="list-style-type: none"> • 毎月1回教育相談 • 検査の実施(3音節了解度、発音明瞭度、読書力診断) • 言葉の聞き取りと理解の指導 • 文法指導 						
	〇年〇月〇日	ろう学校	〇〇(教育相談担当)	<ul style="list-style-type: none"> • 難聴児の学習上・生活上の困難について(校内研修) • 自立活動の指導について、担任と協議 						

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村 太郎	主な記載者 (本人との関係)	〇〇 (担任)	年 月 日作成																				
本人に関する情報	願	<本人> ・友達と一緒に楽しく勉強したり遊んだりしたい。 <保護者> ・自分から友達へ話し掛けるようになってほしい。 ・言葉の力を伸ばして学力を付けてほしい。																						
	主	<本人が好きで、できること、得意なこと、好ましい点> ・学習に意欲的に取り組むことができる。 ・漢字をよく覚え、丁寧に書くことができる。 ・主述の関係を読み取ることができる。 ・出来事の順序に沿って作文することができる。 ・算数の文章題を読んで図で表すことができる。 ・担任には自分から話し掛け、経験したことを身振りも交えながら詳しく話そうとする。 ・補聴器の管理が自分でできる。(電池交換・ケース保管等)	<本人が嫌いなこと、苦手なこと、改善したい点> ・集団での会話では、話題を理解することが難しい。 ・交流学級では自分から友達に話し掛けることがない。 ・身近なニュースや流行を知らないことがある。 ・経験したことを的確な言葉で表現したり、詳しく話したりすることが難しい場合がある。 ・場面の情景をイメージしたり、具体的に文章表現されていない登場人物の心情を読み取ったりすることが難しい。 ・形容詞や副詞を用いて話したり書いたりすることが少ない。 ・複雑なリズムを覚えるのに時間がかかる。 ・サ行、ハ行、ラ行、拗音の発音が苦手である。																					
	実	<家庭での生活上、困難な点> ・本を読んだりテレビを見たりなど、何かに集中していると、話し掛けても気付かない。 ・家族以外の人に話しかけられると、母親に視線を向ける。自分から答えようとしたり、聞き取れなかったことを再度尋ねようとしたりしない。																						
	態	<検査結果> <table border="1"> <tr> <td>検査名</td> <td>絵画語い検査 (PVT-R)</td> <td>検査名</td> <td>聴力検査</td> </tr> <tr> <td>実施機関</td> <td>〇〇病院</td> <td>実施機関</td> <td>〇〇病院</td> </tr> <tr> <td>実施日</td> <td>令和〇年〇月〇日</td> <td>実施日</td> <td>令和〇年〇月〇日</td> </tr> <tr> <td>結果</td> <td>6才9ヶ月</td> <td>結果</td> <td>裸耳聴力 右: 75dB 左: 72dB 補聴聴力 35dB</td> </tr> <tr> <td>資料等</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</td> <td>資料等</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</td> </tr> </table>			検査名	絵画語い検査 (PVT-R)	検査名	聴力検査	実施機関	〇〇病院	実施機関	〇〇病院	実施日	令和〇年〇月〇日	実施日	令和〇年〇月〇日	結果	6才9ヶ月	結果	裸耳聴力 右: 75dB 左: 72dB 補聴聴力 35dB	資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	検査名	絵画語い検査 (PVT-R)	検査名	聴力検査																				
実施機関	〇〇病院	実施機関	〇〇病院																					
実施日	令和〇年〇月〇日	実施日	令和〇年〇月〇日																					
結果	6才9ヶ月	結果	裸耳聴力 右: 75dB 左: 72dB 補聴聴力 35dB																					
資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し																					
支	<長期目標> ・友達の話を理解し、自分の考えたことを伝えることができる。 ・聞き取れなかった時に「もう一度言って」「少しゆっくり話して」などと依頼ができる。 ・経験に基づく語彙や言い回し、学習に必要な用語を覚える。																							
援	<必要な配慮・支援> (◎は合理的配慮として本人・保護者と合意形成した内容) ・新しい単元の学習が始まる前に、その単元で取り扱う内容に関する知識や新出の学習用語の意味・使い方について確認する。 ・体験や本人の思いに沿った言葉を扱い、口声模倣を促したり、日記を書くことを通して表現させたりする。 ◎交流学級で授業を受ける際は、特別支援学級の担任ができるだけT・Tで支援する。 ◎同学年の児童に本人の聞こえについて説明し、望ましいかわり方を知らせる。																							
の	以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。 令和 年 月 日 保護者氏名																							
方	<目標の評価> ・友達と十分に伝え合うまでには至らなかったが、学習場面や係活動の場面で自分から話し掛けたり、考えたことを発表したりする様子が見られるようになった。 ・自分の行動や気持ちを的確な動詞や形容詞で表現することが増えた。(語彙チェック 動詞〇〇語、形容詞〇〇語)																							
向	<配慮・支援の評価> ・単元終了後のテストでは70~80点とり、基本的な内容は習得できたと思われる。 ・口声模倣を促した言葉を使って日記を書いてくるように家庭学習で取り組ませた。文字に表すので正確に覚えているか確認しやすく、聞き違っていた音や単語については、自立活動の時間に再度学習を行ったことで、間違いやすい音を正しく聞き分けようとする意識が育った。 ・仲の良い数人の友達が、本人が注目してから話したり、本人が聞き逃して戸惑っているときに教えたりする様子が見られた。																							
性	以上の情報を引き継ぐことに同意しました。 令和 年 月 日 保護者氏名																							



個別の指導計画（1学期）

学校名	〇〇小学校	学年	3年	氏名	大村 太郎
-----	-------	----	----	----	-------

	得意なところ、好ましいところ	苦手なところ、改善したいところ
主な学習上・生活に上での	<ul style="list-style-type: none"> 学習に意欲的に取り組むことができる。 漢字をよく覚え、丁寧に書くことができる。 主述の関係を読み取ることができる。 出来事の順序に沿って作文することができる。 算数の文章題を読んで図で表すことができる。 担任には自分から話し掛け、経験したことを身振りも交えながら詳しく話そうとする。 補聴器の管理が自分で行える。（電池交換・ケース保管等） 	<ul style="list-style-type: none"> 集団での会話では、話題を理解することが難しい。 交流学級では自分から友達に話し掛けることがない。 身近なニュースや流行を知らないことがある。 経験したことを的確な言葉で表現したり、詳しく話したりすることが難しい場合がある。 場面の情景をイメージしたり、具体的に文章表現されていない登場人物の心情を読み取ったりすることが難しい。 形容詞や副詞を用いて話したり書いたりすることが少ない。 複雑なリズムを覚えるのに時間がかかる。 サ行、ハ行、ラ行、拗音の発音が苦手である。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	<ul style="list-style-type: none"> 交流学級や運動場、体育館、校外等での学習では補聴援助システムを使用する。 言葉や文法の誤りは個別に指導する。 家庭学習で次の日の学習予定の部分を教科書で確認し、学習内容の概要をつかんでおく。 新しい単元の学習が始まる前に、その単元で取り扱う内容についての知識が身に付いているか確認する。 新出の学習用語は事前に意味を確認する。 視覚的な情報（絵、図、文字等）を適宜活用する。 誰が発言しているかが分かるように、「拳手してから話す」というルールを設定する。 他の児童の発表内容を教師が復唱したり、ノートテイクしたりする。 動画を再生するときは字幕を表示する。 交流学級で授業を受ける際は、特別支援学級担任ができるだけT・Tで支援する。
---------------	---

教科等	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
教育課程 学習の場				
自立活動	<p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用頻度の高い動詞を覚える。 形容詞（様子・気持ち）を用いて話したり書いたりできる。 サ行音を単音で発音できる。 話を聞き取って要点が分かる。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 経験に即した動詞を覚える。 基本的な形容詞の意味を覚える。 サ行の舌の位置と息の出し方を覚える。 短い文を正しく復唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉絵辞典の形容詞の理解度をチェックし、知らない形容詞について、日常会話の中で本人の気持ちや場面状況に応じて用いる。 動詞や形容詞を用いて作文し、暗記させる。作文したプリントはカテゴリ別にファイルして復習に用いる。 日記の文の意味に合う動詞や形容詞を用いて書き直したものを暗記させる。 ストーリー法でサ行音の舌の位置と息の出し方を覚えさせ、「さ」を誘導する。 話の内容を正しく聞き取れているかを確認するため、聞き取った文に関する質問をする。 聞き取れなかったときは「もう一度言ってください」と言うように促す。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の文で頻度の高い形容詞でも知らないものがあった。（恐ろしい、珍しい等） 覚えた動詞や形容詞を日記で用いたり、日常会話で用いたりする様子が見られた。 動詞30語、形容詞25語について言葉と絵をマッチングできた。 サ行音の舌の位置と息の出し方を覚え、ストーリーにしても「さ」と「せ」を単音で明瞭に発音できるようになった。「し」は「静かにするときの『シー』だよ」と説明すると舌の位置と息の出し方を理解し、発音できた。 「どんな〇〇ですか？」といった様子や気持ちを答える質問にも答えることができるようになった。
国語	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年に同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 読解の単元は教材文の概要を個別指導で理解させてから交流学級で学習させる。 話し合いの内容の概要を確認してからグループ学習に参加させる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 友達の話す内容はほぼ理解できていたが、自分から質問することはなかった。 友達に指名されてから発言することはあった。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年に同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出の算数用語や考え方を示した図、計算の方法は教室側面に掲示して、いつでも確認できるようにする。 体育の100m走や社会の校外学習等、距離を体感できる学習で単位を扱う。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 等分除と包含除の違いの理解が不十分である。 資料から数値を整理して棒グラフに表すことはできた。2次元表の読み方は繰り返し説明が必要だった。 kmを用いる距離を感覚的につかめず、mと混同することがあった。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年に同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等における配慮事項等と同じ。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に意欲的に取り組んだが、結果から分かることを自分で考えて発表したり記述したりすることは難しい。 「葉っぱ」（幼乳的な表現）を「葉」と変えることが難しい。また「くき」「根」という言葉が知らなかった。
小学3年 特別支援学級又は 交流学級				

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気づき等
社会 小学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・地図を持ち帰り、家族で出かけた場所や名称、移動時間等を確認してもらう。	○	・グループでの絵地図作りでは自分から鉄道やバスの経路を書き込むことを希望して担当した。 ・公共の施設の名称や機能についての知識が少なく、後日、図書室で調べて確認したり、保護者と実際に公共施設を利用してもらったりした。
音楽 小学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・今学期に歌う曲は事前にCDに録音して渡し、節や歌詞の内容をつかませておく。 ・一斉指導の際は、本人のリコーダーの音を補聴援助システムの送信マイクで拾って聞かせる。	△	・自分のリコーダーの音を周りの音から抽出して聞くことができにくく、自分がどれくらいの音量で吹いているか、どのような音質か、息の量は適当かを判断しながら演奏することは難しかった。
図画工作 小学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・何を表現するか本人が具体的なイメージをもてない場合は、好きなもの（動物・植物・物語等）を想起できるよう話し合ったり、本を見たり、友達が作成する様子を参考にさせたりする。	○	・材料の形から、立体的に制作することは苦手で、動物を1体作る程度だったが、絵の具で自由な線や点を描いているうちに「雲の上の天気を神様がいたずらして・・・」と自分で物語を発想して1場面の絵に仕上げることができた。 ・「パレット」「水入れ」を覚えていなかった。
体育 小学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・具体的な動きは手本を示し、十分理解してから活動できるようにする。 ・安全面を事前に十分確認してから学習するようにする。	○	・平均台の上を色々な姿勢で渡ったり、ケンケン相撲をしたりするとき等、バランスを崩しやすかった。 ・友達と協力して用具を出し入れする様子が見られた。 ・合図に気付かず、行動がワンテンポずれることがあった。
道徳 小学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・事前に教材文を読ませ、似たような経験や思いをしたことがあるか、本人にあらかじめ考えさせておく。	◎	・友達から親切にしてもらって嬉しかった経験を発表することができた。友達からも本人の「優しいところ」を発表してもらい、交流学級での所属感を感じることができた様子だった。
総合的な学習の時間 小学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・事前にインタビューする内容を考え、メモを取る練習と、インタビューの練習をしておく。	◎	・教師と一緒に事前にインタビュー内容を考えることができた。 ・インタビューの際、友達が「もう一回言ってください」と依頼している様子を見て、自分がインタビューするとき、聞き取れなかったところをもう一度尋ねる様子が見られた。
外国語活動 小学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・ALTに本児の状態を伝え、笑顔で接することで次への意欲につなげる。 ・活動内容を示した絵カードを併用する。	◎	・絵カードに活動に応じたイラスト等を描いていたため、本児も分かりやすかったようであった。ALTとも仲良くなることができ、昼休みに一緒に遊ぶなどしていた。
特別活動 小学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・友達と協力して行う係を担当させる。（学級文庫係で友達と話し合って借りる本を選んだり、借りた本を返したりする。）	○	・学級文庫係として、友達と一緒に活動することができた。 ・仕事は協力して行うことができたが、活動を忘れて、同じ係の友達に促されたり、指示されたりすることも多かった。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
R 年 月 日 : ~ :	保護者、担任、特支CO、教頭	・個別的教育支援計画の今年度の目標と支援の内容について ○記載のとおり。
R 年 月 日 : ~ :	保護者、担任、特支CO、教頭	・個別的教育支援計画の目標と支援の内容について（中間評価） ○学習の基礎・基本を十分に理解できるように、交流学級で学習するか、特別支援学級で学習するかを柔軟に対応する。
R 年 月 日 : ~ :		

事例 9

病弱及び身体虚弱
特別支援学級

中学校3年生

※知的障害のない生徒の教育課程

秘

プロフィール票

作成日 (年 月 日)

本人に関する情報	氏名	おおむら はなこ 大村 花子		性別	女	生年月日	平成 年 月 日 生	才	
	園・学校名	〇〇中学校				学年等	3年		
	学級等	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級指導 障害種別				<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 障害種別 病弱・身体虚弱			
	気障の害状・病況	診断名	慢性糸球体腎炎						
		手帳の取得状況	手帳	等級		手帳	等級		
教育歴	幼稚園・保育所等	△△幼稚園							
	小学校	△△小学校卒業							
	中学校	△△中学校入学 → 〇〇中学校 (2年時)							
	高等学校								
家庭に関する情報	住所	〒		家族構成					
				続柄	氏名	備考			
				父	大村 〇〇				
	連絡先	☎		母	大村 〇〇				
		☎							
備考									
関係機関に関する情報	実施日(期間)	機関名	担当者	主な支援・助言内容等					
	〇年〇月〇日～現在	〇〇医療センター	〇〇 (医師)	<ul style="list-style-type: none"> 小児科主治医 (月1回通院中) 〇年〇月〇日～〇月〇日 入院治療 (〇〇小 院内学級) 〇年〇月〇日～〇月〇日 入院治療 現在投薬により治療中 					
	〇年〇月〇日	〇〇市教育委員会	〇〇 (指導主事)	<ul style="list-style-type: none"> 病状に応じた学習の場について 					
	〇年〇月〇日	〇〇医療センター	〇〇 (医師)	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活上の配慮事項等について協議 					

秘

個別の教育支援計画

氏名	大村 花子	主な記載者 (本人との関係)	〇〇 (担任)	年 月 日作成
願	<本人> ・高校に進学したい。			
	<保護者> ・高校に進学してほしい。 ・自分の体調管理ができるようになってほしい。			
本人に関する 情報	<本人が好きで、できること、得意なこと、好ましい点> ・細かい作業が得意で、模型を作ることが得意である。 ・スポーツに関するニュースに詳しい。 ・学年相応の計算や漢字、英単語はできている。 ・本を読むことが好きである。		<本人が嫌いなこと、苦手なこと、改善したい点> ・自分の体調よりも、やりたいことの方を優先してしまい、制限を越えて活動してしまうことがある。 ・校内での荷物の運搬等を他者に頼むことが出来ず、一人で運搬することがある。 ・入院していた時期があるため、学習していない単元がある。特に、数学と英語が苦手である。	
	<家庭での生活上、困難な点> ・うがいや手洗いは、声掛けがないとしないことが多い。 ・宿題の内容が難しいと感じたときに、途中であきらめてしまうことがある。 ・自暴自棄になり、イライラして、母親に強い口調で暴言を吐くことがある。			
	<検査結果>			
	検査名		検査名	
実施機関		実施機関		
実施日		実施日		
結果		結果		
資料等	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	資料等	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	
支援の 方向性	<長期目標> ・希望する高校進学に向け、基礎学力の定着を図る。 ・自己の体調に応じて他者に支援を依頼することができる。			
	<必要な配慮・支援> (◎は合理的配慮として本人・保護者と合意形成した内容) ・服薬によって出血すると止まりにくいので、打撲やけがのないように活動させるが、制限しすぎることがないようにする。 ◎風邪等の感染症にかかると重症化しやすいので、うがいや手洗いの励行とマスクを着用させる。 ・自覚症状が少ないため、制限を越えた運動をしている場合には教師が声を掛け、制限する。 ◎制限のある時期は、食事の内容や量について保護者と連絡をとる。 ・自分の良さを認めたり、他者に支援を依頼したりできるようにする。 ・体調が悪かったり、入院していたりしたことから生活の経験不足や学習の空白があることを意識して指導する。			
以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。 <div style="text-align: center;">令和 年 月 日 保護者氏名</div>				
年度 末 評価	<目標の評価> ・数学や英語についても学力が向上し、希望する高校の受検に向けて、さらに学習意欲が高まった。 ・慣れた環境であれば他者に支援を依頼できた。			
	<配慮・支援の評価> ・慣れた環境であれば、体調のことや不安な気持ちを教師や友達に相談できるようになり、自分で体調管理をできるようになってきた。しかし、新しい環境では不安な気持ちが強く、支援を依頼できない可能性がある。まずは、教師との信頼関係を築き、徐々に、友達にも不安な気持ちが相談できるようにしていく必要がある。 ・全職員で共通理解を年度初めに行っていたため、体育祭や校外学習といった多くの教師がかかわる学習場面において、体調面・心理面に配慮した指導・支援を行うことができた。			
以上の情報を引き継ぐことに同意しました。 <div style="text-align: center;">令和 年 月 日 保護者氏名</div>				



個別の指導計画（前期）

学校名	〇〇中学校	学年	3年	氏名	大村 花子
-----	-------	----	----	----	-------

主学 な習 実上 態・ に生 つ活 い上 ての	できること、得意なこと、好ましい点	苦手なこと、改善したい点
	<ul style="list-style-type: none"> 細かい作業が得意で、模型を作ることが得意である。 スポーツに関するニュースに詳しい。 学年相応の計算や漢字、英単語はできている。 本を読むことが好きである。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体調よりも、やりたいことの方を優先してしまい、制限を越えて活動してしまうことがある。 校内での荷物の運搬等を他者に頼むことが出来ず、一人で運搬することがある。 入院していた時期があるため、学習していない単元がある。特に、数学と英語が苦手である。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	<ul style="list-style-type: none"> 服薬によって出血すると止まりにくいので、打撲やけがのないように活動させるが、制限しすぎることがないようにする。 自覚症状が少ないため、制限を越えた運動をしている場合には教師が声を掛ける。 自分の良さを認めたり、他者に支援を依頼したりできるようにする。
---------------	---

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気付き等
自立活動	<p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の病状を理解し、体調管理を行う。 必要に応じて不安な気持ちを他者に伝えたり、支援を依頼をしたりする。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の病状を自覚し、決められた活動や食事の量を守るができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の病状（どのような病気か、自分はそのような状態か、気を付けなければいけないことは何か等）について知っていることを書かせることで、本人の自己理解の程度を把握する。 病状や生活上の配慮点等に関する資料を提示し、自身の病状に対する知識を深めさせる。 病状について本人にどのように伝えてあり、どこまで伝えてよいか保護者に確認をとっておく。 保健体育の健康管理や栄養等に関して指導する教科担任とも情報を共有し、効果的に学ぶことができるようにする。 毎日、体調や気を付けなければいけないことを自分で記録ノートに書き、体調の変化に気を付けるようにする。また、自由欄を設け、本人の不安な気持ちや考えていることなどが書けるようにしておく。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 自分の病状や気を付けること等の理解はできているが、友達と一緒に活動しているときに、他の友達と同じように活動してしまうことがあった。体調を記録ノートに書かせることで意識を高める。 記録ノートの自由欄に、「他の友達と同じように活動できないときなどに友達からどのように見られるのか」「高校に進学できるのか」という不安を書いていることがあった。少しずつ、不安な気持ちを担任に伝えることができるようになってきている。今後も、記録ノートを介して、担任との交流を深め、不安な気持ちを解消できるようにしていきたい。また、交流学級の担任ともさらに連携を図り、交流学級の友達へも支援の依頼ができるようにしていきたい。
数学 中学3年 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年と同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任が指導する。 入院による未学習の内容を把握する。関連する内容の授業の前に、未学習の内容を学習してから、当該学年の内容が理解できるようにする。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 未学習の内容を学習した後、当該学年の内容を学習することで、スムーズに理解することができた。後期も、未学習の内容と関連する内容があるため、引き続き指導したい。
外国語 中学3年 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年と同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任が指導する。 入院による未学習の内容を把握する。関連する内容の授業の前に、未学習の内容を学習してから、当該学年の内容が理解できるようにする。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 未学習の内容を学習した後、当該学年の内容を学習することで、スムーズに理解することができた。 学習意欲が高く、習得状況も良好で、ほぼ未学習の内容を履修できたが、学習内容の定着のために後期も個別指導を行う。
保健体育 中学3年 交流学級	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年と同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容に関する一部の事項を取り扱わない。 体育分野では、100m走など、運動量の多い活動を行う場合は、タイムを計る等の活動を準備する。 体育祭前など、長時間に渡り外で学習する際には、適宜、休憩を取りながら参加する。 保健分野では、健康な生活と疾病の予防等の内容を学習する際は、個人情報に配慮しながら、自立活動との関連を考え、自己の生活管理に対する意識が高まるよう指導する。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭前に100m走を繰り返し行うことがあったが、ゴールテープやタイムを計る役割を担当し、友達を励ましながらか参加していた。後期は、球技や持久走等、運動量が多い学習が多いため、参加する内容や量を決め、少しでも他の生徒と同じように学習できるようにする。 保健分野の学習プリントの感想欄に、自己の健康に関することや健康の維持管理について前向きな感想が書かれており、意識を高めることができた。
国語 中学3年 交流学級	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年と同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容と体調管理との関連を図りながら、必要に応じて担任が支援する。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 読書が好きで、評価テストや漢字の習得状況も良好であった。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気づき等
社会 中学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・活動内容と体調管理との関連を図りながら、必要に応じて担任が支援する。	◎	・入院期間中の未学習の単元は、学習プリントを使い補充学習を行った。関心・意欲が高く、評価テストでは9割以上の得点であった。
理科 中学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・活動内容と体調管理との関連を図りながら、必要に応じて担任が支援する。	◎	・入院期間中の未学習の単元は、学習プリントを使い補充学習を行った。 ・評価テストで、8割以上の得点であった。
音楽 中学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等と同じ。	◎	・特記事項なし。
美術 中学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等と同じ。	◎	・特記事項なし。
技術・家庭 中学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等と同じ。	◎	・特記事項なし。
道徳 中学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等と同じ。	◎	・特記事項なし。
総合的な 学習の時間 中学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等と同じ。	◎	・特記事項なし。
特別活動 中学3年 交流学級	・当該学年に同じ。	・各教科等における配慮事項等と同じ。	◎	・特記事項なし。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
R 年 月 日 : ~ :	教頭、学年主任、担任、特支CO、 養護教諭、給食栄養士、保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・病状について ・学習空白に対する配慮、運動制限、食事制限があるときの配慮 ○苦手である数学と英語については、特別支援学級で学習し、学習空白の期間で十分に習得していない学習内容も含めて指導を行う。 ○運動制限があるときには、家庭より学校へ連絡し、体育の時間は、無理のない程度に参加できるようにする。また、友達同士で活動しているときには、つい、動きすぎる可能性があるため、気付いた職員が声を掛ける。 ○食事制限があるときには、塩分やたんぱく質の量を制限する必要があるため、給食は、味付けを工夫したり、代替食品等を活用する。また、家庭科の調理実習等、食品を扱う学習をする際には、自分が試食するのではなく、班の代表が試食し、感想を伝える等の配慮をする。
R 年 月 日 : ~ :	全職員	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成した内容を全職員へ伝えた。 ○高校進学を目指し、数学と英語については、特別支援学級で指導を行い、その他の教科については、交流学級で指導を行う。 ○運動制限や食事制限が必要な時には、保護者からの連絡を朝の学年の打ち合わせの際に報告し、共通理解を図る。
R 年 月 日 : ~ :	学年主任、担任、特支CO、保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画、個別の指導計画（前期分）を保護者に提案 ○提案した通りの内容で合意。
R 年 月 日 : ~ :	学年主任、担任、特支CO、保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画（前期分）の評価を保護者に提案 ○提案した通りの内容で合意。

言語障害 特別支援学級

中学校 1 年生

※一部を下学年の目標・内容に替える教育課程

秘

プロフィール票

作成日 (年 月 日)

本人に関する情報	氏名	くしま せんた 玖島 千太	性別	男	生年月日	平成 年 月 日 生	才
	園・学校名	〇〇中学校			学年等	1年	
	学級等	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級指導 障害種別			<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 障害種別 言語障害		
	気障の害状・況病	診断名	機能性構音障害、知的障害（軽度）				
	手帳の取得状況	療育	手帳	等級	B2	手帳	等級
教育歴	幼稚園・保育所等	〇〇幼稚園					
	小学校	〇〇小学校卒業（小学3～6年時 言語障害特別支援学級在籍）					
	中学校	〇〇中学校入学					
	高等学校						
家庭に関する情報	住所	〒		家族構成			
			続柄	氏名	備考		
			父	玖島 〇〇			
	連絡先	☎	母	玖島 〇〇			
		☎	妹	玖島 〇〇	〇〇小学校4年		
備考							
関係機関に関する情報	実施日（期間）	機関名	担当者	主な支援・助言内容等			
	〇年〇月〇日～現在	〇〇病院	〇〇（医師）	・かかりつけ医			
	〇年〇月〇日～現在	〇〇病院	〇〇（言語聴覚士）	・3か月に1回受診（2時間） ・言語療法（発音の明瞭度の確認と語彙の拡充）			
	〇年〇月〇日	県教育センター	〇〇（指導主事）	・特別支援学級の学級経営、自立活動、教育課程について			



個別の教育支援計画

氏名	玖島 千太		主な記載者 (本人との関係)	〇〇 (担任)		年 月 日作成	
願	<本人> ・友達と上手に話ができるようになりたい。						
	<保護者> ・はっきり発音できるようになってほしい。 ・学習の基礎的な内容を理解できるようになってほしい。						
本人に関する情報	主な実態	<本人が好きなこと、できること、得意なこと、好ましい点> ・話すことは好きで、担任とは前日の出来事やテレビ番組の内容について話すことを楽しんでいる。 ・学習内容に関心をもって参加し、課題にも意欲的に取り組む。分からないことがあると質問してくる。 ・反復学習を行うことで基礎的な内容が定着する。 ・日常の体験に基づいて具体的なイメージをもたせると理解しやすい。 ・漫画を好んで読む。 ・家庭学習は毎日全部済ませて提出する。 ・交流学級で元気がない友達を見ると、心配になり、特別支援学級の担任に「どうしたのかな」と伝えることがある。			<本人が嫌いなこと、苦手なこと、改善したい点> ・交流学級では、ほとんど話さない。(返事・挨拶程度。促されると単語で応える) ・力行音、サ行音、ラ行音が不明瞭で、日常会話でも聞き取りにくいことが多い。 ・漢字を覚えることが苦手。 ・複雑な文章の読解が苦手で、作文は事実の羅列になる。 ・算数の単位の換算や比例等抽象的な学習内容は理解が難しい。		
		<家庭での生活上、困難な点> ・発音が不明瞭で母親以外の家族も聞き取りにくいことがある。 ・休日に友達と遊ぶことがほとんどない。 ・学習が今後ますます難しくなってくるのではないかと心配。					
	<検査結果>						
			検査名	絵画語い検査 (PVT-R)	検査名	構音検査	
		実施機関	〇〇病院	実施機関	〇〇病院		
		実施日	令和〇年〇月〇日	実施日	令和〇年〇月〇日		
		結果	〇才〇か月	結果	力行→タ行 サ行→タ行 ザ行→ダ行 ラ行→ダ行		
		資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し		
支援の方向性	<長期目標> ・力行音、サ行音の発音の要領をつかみ、単語で明瞭に発音できる。 ・話が伝わらない場合は他の方法で伝えられるようになる。 ・基礎的な学習内容を定着させる。						
	<必要な配慮・支援> (◎は合理的配慮として本人・保護者と合意形成した内容) ・力行音、サ行音の発音練習を継続して行う。 ◎話し言葉だけでは伝わりにくい場合に筆談等の補って伝える方法を身に付ける。 ◎交流学級の生徒にコミュニケーションの方法について知らせ、本人が安心してかかわれるようにする。 ・基礎的な学習内容を反復して学習することを通して理解を促す。						
以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。							
令和 年 月 日 保護者氏名							
年度末評価	<目標の評価> ・力行やサ行の発音要領は習得でき、語頭の力行音やサ行音は正しく発音できることも増えた。語中、語尾の音については難しかった。 ・交流学級のみでの学習の理解が難しく、適宜個別に反復学習させて、定着を図った。						
	<配慮・支援の評価> ○単音での発音要領は習得できたが、発語の明瞭度が向上させることは難しかった。 ・引き続き発音学習は行っていく。 ・書いて伝えることの良さを本人が感じているので、確実に伝えるための手段について(筆記、タブレットの利用)本人と話し合いながら検討する。 ○学習の内容によっては特別支援学級で個別に指導する時間を設定するほうが理解が深まった。						
以上の情報を引き継ぐことに同意しました。							
令和 年 月 日 保護者氏名							



個別の指導計画（1学期）

学校名	〇〇中学校	学年	1年	氏名	玖島 千太
-----	-------	----	----	----	-------

	できること、得意なこと、好ましい点	苦手なこと、改善したい点
主 学 な 習 実 上 態 ・ に 生 つ 活 い 上 て の	<ul style="list-style-type: none"> 話すことは好きで、担任とは前日の出来事やテレビ番組の内容について話すことを楽しんでいる。 学習内容に関心をもって参加し、課題にも意欲的に取り組む。分からないことがあると質問してくる。 反復学習を行うことで基礎的な内容が定着する。 日常の体験に基づいて具体的なイメージをもたせると理解しやすい。 漫画を好んで読む。 家庭学習を毎日全部済ませて提出する。 交流学級で元気がない友達を見ると、心配になり、特別支援学級の担任に「どうしたのかな」と伝えることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流学級では、ほとんど話さない。（返事・挨拶程度。促されると単語で応える） 力行音、サ行音、ラ行音が不明瞭で、日常会話でも聞き取りにくいことが多い。 漢字を覚えることが苦手。 複雑な文章の読解が苦手で、作文は事実の羅列になる。 算数の単位の換算や比例等抽象的な学習内容は理解が難しい。

〈教科等について〉

各教科等における配慮事項等	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な内容を取り扱った後、類似問題に繰り返し取り組ませることで十分に理解できるようにする。 言葉のみでの理解が難しい場合は、内容を図や絵に表したり、具体物を提示したりして理解を促す。 学習用語は事前に扱う。また、用具等の名前は事前に確認し覚えさせる。 グループ内で話し合う時間は全員が発言するルールで、本人も発言するよう促す。 交流学級で授業を受けるときは、特別支援学級担任ができるだけT・Tで支援する。
---------------	---

教科等	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気づき等
教育課程 学びの場				
自立活動	<p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 力行音、サ行音を単語で明瞭に発音できる。 身近な人に話がかうまく伝わらなかったときに書いて伝えることができる。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 力行音、サ行音の発音の要領を身に付ける。 聴覚的な記憶力を向上させる。 	<p><力行音の指導></p> <ul style="list-style-type: none"> スポットで喉に少量の水を落としてうがい。 水なしでうがい音を出す（奥舌をあげる）。 「か」の単音の発音 <p><サ行音（さ・ず・せ・そ）の指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ストローを舌先と歯茎部で押さえて息を出す。 ストローを外して息を出す。 「さ」の単音の発音 <p><聞き分けの学習></p> <ul style="list-style-type: none"> 力行、サ行の音が入った単語の聞き分け 言葉を書いたカードを並べてしりとり 	○	<ul style="list-style-type: none"> 力行音、サ行音とも発音の要領はつかめた。構音部位図で舌の位置を確かめて発音を促すと「か・く・こ」「さ・そ」は正しく発音できることが多かったが、「き・け」は「ち・ちえ」への置換「す・せ」は「しゅ・しえ」への置換がみられた。 音の聞き分けはS/N比（声と騒音のバランス）±0で正答率が75%。音声への注意集中、音の図と地の弁別力に課題があると考えられる。 書いてやりとりするゲームでは、確実に伝わる良さを実感していた。拗音の「ゃ・ゅ・ょ」を大きく書いてしまう傾向がある。
国語 中学1年 特別支援学級	・当該学年に同じ。	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を使って調べた言葉や言い回しを用いて例文を作り、自分の辞書を作成する。 教科書を音読する際は、力行音やサ行音に気を付けて読むように促す。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の文中に、本人が知らない単語が多く、読み取りが十分にできない。 スピーチの構成を確認しながら一項目ずつ書くことで「好きなこと」に関するスピーチ内容をまとめることができた。
数学 小学5年 特別支援学級	・小学校第5学年に同じ。（2学年下に替える。）	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元の内容や問題の解き方を示した図や計算方法等は教室側面に掲示し、いつでも確認できるようにする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し取り組むことで、位や小数点の移り方を「100倍だから右に2つ」「1/100だから左に2つ」と0の数に合わせて考えることが分かった。 直方体や立方体を平面の図に表しても分かりにくかったため実物で確認した。
理科 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験等から考えられることはキーワードを与えて気づきを促す。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察には意欲的に取り組んだ。分かったことをワークシートに文章の空欄にキーワードを書かせるようにした。それを読むことでグループ内で発表することができた。 6音節以上の用語を覚えることが難しく、促音の位置を間違ったり、同母音の音が一言脱落したりすることがあった。
社会 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	<ul style="list-style-type: none"> 資料集の写真や図、グラフ等を電子黒板で提示して、必要な部分に注目できるようにする。 世界の地理に関心がもてるよう、ニュース等テレビ番組を話題として取り上げる。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地域の位置関係は覚えることができたが、地域名と国の名前を混同したり、緯度や経度、気候帯の理解が不十分だった。 小学校で学んだ日本の歴史上の人物の名前と肖像画は一致していたが、功績や建造物等と結び付けて覚えることは難しかった。
音楽 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	<ul style="list-style-type: none"> 交流学級での一斉指導で声を出して歌えるように、特別支援学級で担任と毎朝歌い、歌うことに慣れさせる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞を全部覚えると、小さな声であったが交流学級での授業で歌うことができた。 6音節以上の楽器の名前を覚えることが難しく促音の位置を間違ったり、連続する同母音の音が一言脱落すること等の様子が見られた。

教科等 教育課程 学びの場	目標	主な指導内容・配慮事項等	評価	気づき等
美術 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・用具や技法について写真と文字で表したものを美術室の壁に掲示し、分からなかったときに自分で確認できるようにする。 ・体の動き、ポーズから状況や思いを感じ取らせる。	△	・小さくテッサンする傾向があるので、画用紙いっぱいにも構図を考えるように促した。 ・混色する意識がないので、見たもののイメージを色で表現すること、混色の例を提示して参考にすることを指導した。
保健体育 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・競技のルールは毎回競技を始める前に確認する。 ・体操は一つ一つの動きを大きく丁寧にするように促す。	○	・体操では目で見えない後ろへ体幹をそらしたり頭上で手を動かしたりすることが難しいことがある。大きく動かすことを意識すると肘や膝、指先まで意識することができた。 ・競技のルールは繰り返し説明することで基本的な事柄は理解して参加できた。
技術・家庭 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・家庭での食事調べや給食の栄養調べなど、自分の食生活に結び付けて調べさせることで関心を高める。 ・材料について身の回りのどこにどのように使われているかを確認する。	◎	・必要な栄養素を学習することで、自分の栄養摂取を振り返りながら、足りない栄養（食材）を補って食べようという意識が出てきた。 ・材料の性質を詳しく学習することで用途についても理解することができた。
道徳 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・社会や理科で学習した事項と結び付けて、自然愛護や郷土の伝統や文化を学ぶことができるようにする。 ・交流学級での係活動に取り組みさせることで、協力する意識や、自分から人と関わる機会をもたせる。	○	・学校生活上のルールについては理解しているが、「責任ある行動」「生活の向上」等の抽象的な表現では理解が難しかった。 ・郷土の誇れるもの（有名なもの）にちなんだ御当地キャラクターを考える学習では友達の意見に同意するなど、意欲的にグループ活動に参加した。
外国語 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・形の似たアルファベットに気を付けて書くことを心掛けさせる。	○	・繰り返しのある英語の歌を覚え、小さな声ではあるが、他の生徒と一緒に声を合わせて歌う様子が見られた。 ・5mm幅の罫線のノートに基本線を赤で示すと描きやすいようだった。
総合的な学習の時間 中学1年 特別支援学級及び交流学級	・当該学年に同じ。	・個別に学習テーマを決定する際は、特別支援学級で担任と話し合っで決める。 ・グループ学習と全体学習は交流学級で活動する。	○	・自分と同じ個人テーマを設定している他の生徒と班を編成する際は、自分から班に参加し、自分が集めた地域に関する資料を示していた。 ・他の生徒からの質問に対して、単語ではあるが、答える様子が見られた。
特別活動 中学1年 交流学級	・当該学年に同じ。	・慣れない集団での活動は、事前に場所、時間、内容等を説明して理解させておく。 ・係活動を分担し、他の生徒と協働できるようにする。	△	・遠足や歓迎集会等、活動するメンバーの入れ替わりがあると落ち着かず、担任が付き添い、今のような活動（話し合い、ゲーム）をするときなのか説明する必要があった。 ・特別支援学級での係活動は進んでするが、交流学級の係活動は促されてから始めていた。

保護者面談・校内支援委員会等の記録		
日時	参加者	協議（・）・合意内容（○）
R 年 月 日 : ~ :	保護者、教頭、担任、特支CO	・今年度の個別の教育支援計画の長期目標と支援の内容について ○発音指導を継続すること。 ○発音が不明瞭で相手に意図が伝わらないときの代替手段を考えること。
R 年 月 日 : ~ :		
R 年 月 日 : ~ :		

おわりに

インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育の一層の充実が求められる中、特別支援学級に在籍する児童生徒数が増加傾向にあり、小・中学校、義務教育学校における「特別支援学級」は、多様な学びの場の一つとして、障害のある児童生徒一人一人に対する、きめ細かな指導・支援、合理的配慮を充実させていくことが大きな課題となっています。

障害のある児童生徒一人一人に対する指導・支援、合理的配慮を充実させていくためには、児童生徒の実態を適切に把握し、具体的な目標や指導内容を設定して実践し、評価・改善していくことが重要なのは言うまでもありません。

本書を作成するに当たっては、特別支援学級の担任が、これまでの学習の履修と修得の状況を十分に踏まえながら、一貫した継続性のある指導・支援、合理的配慮ができるようにと願い作成しました。児童生徒の発達段階や実態に応じたきめ細かな指導・支援、合理的配慮がより一層適切なものになり、児童生徒が「わかった」「できた」という喜びを感じ、学習への意欲が高まり自己肯定感を高めて生き生きと学んでほしいとの願いを込めています。

本書では、各障害種別の特別支援学級での様々なケースの事例を示していますが、今回、提示した個別の教育支援計画及び個別の指導計画の様式はあくまでも一つの例です。

それぞれの学校や地域で工夫を加え、有効に活用できる個別の教育支援計画及び個別の指導計画になることを願っています。